



2026年度 第1四半期（4-6月） 決算説明会

コマツ出席者

執行役員CFO
執行役員経営管理部長

細谷 浩志
菱沼 聖史

2026年7月29日（水）

目次

I. 2026年度 第1四半期（4-6月）決算の概要 <P3-P12>

P4-P5	: 2026年度 第1四半期（4-6月）の概要・セグメント売上高と利益
P6-P9	: <建設機械・車両> 2026年度 第1四半期（4-6月）の状況
P10	: <リテールファイナンス> 2026年度 第1四半期（4-6月）の状況
P11	: <産業機械他> 2026年度 第1四半期（4-6月）の状況
P12	: 連結貸借対照表とフリー・キャッシュ・フロー（FCF）

II. 2026年度の業績見通し <P13-P30>

P14-P15	: 2026年度の見通し
P16-P20	: <建設機械・車両> 2026年度の見通し
P21	: <リテールファイナンス> 2026年度の見通し
P22	: <産業機械他> 2026年度の見通し
P23-P27	: <建設機械・車両> 主要7建機需要推移と見通し（全体および地域別）
P28-P29	: <建設機械・車両> 鉱山機械の市場動向・需要推移の見通し
P30	: <建設機械・車両> 本体・部品・サービス等の売上高の見通し

参考資料 <P31-P42>

P32-P36	: 四半期毎の状況
P37-P39	: <建設機械・車両> 一般建機・鉱山機械別の状況・見通し
P40	: Komtrax 月平均稼働時間推移
P41-P42	: BBLレシオ〔受注／売上指数（6ヶ月）〕

I . 2026年度 第1四半期（4-6月）決算の概要

2026年度 第1四半期（4-6月）の概要

- ・売上高は、前年同期比+14.7%増収の1兆431億円。
- ・営業利益は、前年同期比+8.0%増益の1,516億円。売上高営業利益率は、前年同期比▲0.9ポイント低下し14.5%。
- ・純利益は、前年同期比+5.4%増益の962億円。

金額単位：億円	2025年4-6月 ¥145.5/USD ¥162.5/EUR ¥92.6/AUD	2026年4-6月 ¥158.5/USD ¥184.6/EUR ¥112.6/AUD	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	9,095	10,431	+1,336	+14.7%
セグメント利益	1,400	1,508	+108	+7.7%
その他の営業収益（▲費用）	4	7	+4	-
営業利益	1,404	1,516	+112	+8.0%
売上高営業利益率	15.4%	14.5%	▲ 0.9ポイント	-
その他の収益（▲費用）	▲ 91	▲ 115	▲ 24	-
税引前四半期純利益	1,313	1,400	+87	+6.7%
当社株主に帰属する四半期純利益	912	962	+50	+5.4%

2026年度 第1四半期（4-6月）の各セグメント売上高と利益

- ・建設機械・車両部門の売上高は、前年同期比+14.4%増収の9,669億円。セグメント利益は、前年同期比+6.4%増益の1,301億円。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は、前年同期比+7.4%増収の327億円。セグメント利益は、前年同期比+2.8%増益の96億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、前年同期比+21.7%増収の529億円。セグメント利益は、前年同期比+25.1%増益の90億円。

金額単位：億円		2025年4-6月		2026年4-6月		前年同期比	
						増減	増減率
売上高		9,095		10,431		+1,336	+14.7%
	建設機械・車両	(8,423)	8,449	(9,650)	9,669	(+1,228) +1,220	(+14.6%) +14.4%
	リテールファイナンス	(242)	304	(258)	327	(+16) +23	(+6.5%) +7.4%
	産業機械他	(431)	435	(523)	529	(+93) +94	(+21.5%) +21.7%
	消去	▲ 93		▲ 94		▲ 1	-
セグメント利益		15.4%	1,400	14.5%	1,508	▲0.9%ポイント +108	+7.7%
	建設機械・車両	14.5%	1,223	13.5%	1,301	▲1.0%ポイント +79	+6.4%
	リテールファイナンス	30.8%	94	29.4%	96	▲1.4%ポイント +3	+2.8%
	産業機械他	16.6%	72	17.0%	90	+0.4%ポイント +18	+25.1%
	消去または全社	12		21		+9	-

各セグメントの状況：

■ 建設機械・車両

売上は、円安と物量増および販売価格改善のプラス影響により増収。

利益は、円安と物量増および販売価格改善のプラス影響が、構成差やコスト増などのマイナス影響を上回り増益。

■ リテールファイナンス

売上・利益は、主に円安の影響および資産の拡大により増収増益。

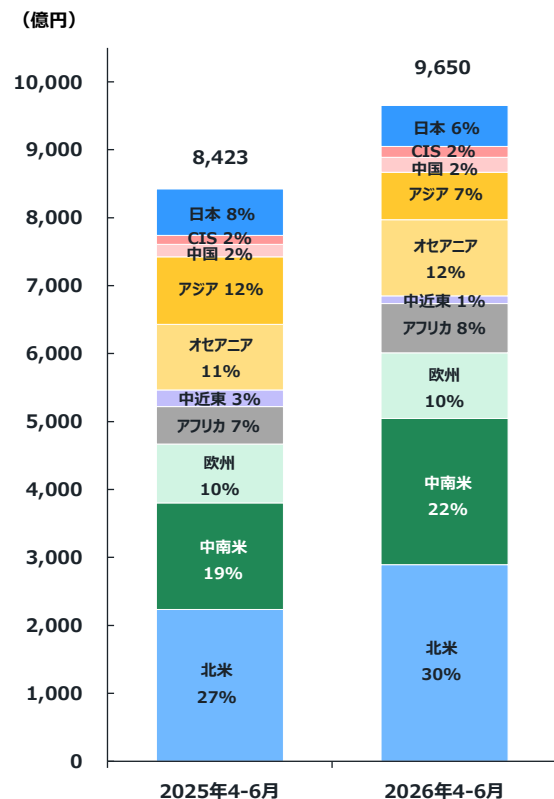
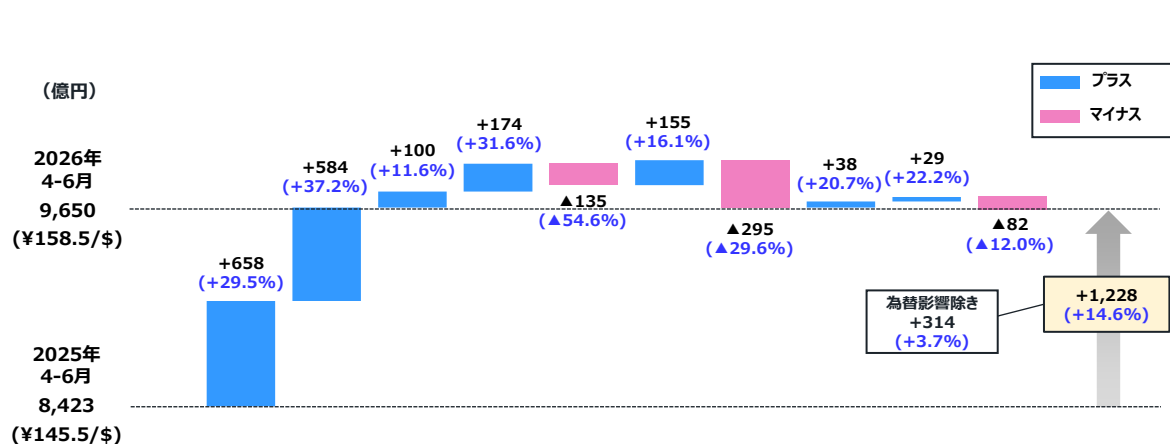
■ 産業機械他

自動車産業向けは、主に大型プレスの販売が増加、半導体産業向けは、主にエキシマレーザのメンテナンス売上が増加し、全体では増収増益。

% ： 利益率 () ： 外部顧客向け売上高

＜建設機械・車両＞2026年度 第1四半期（4-6月）の地域別売上高（外部顧客向け）

- ・外部顧客向け売上高は、前年同期比+14.6%増収の9,650億円。為替影響を除くと、前年同期比+3.7%の増収。
- ・アジア、中近東などで減収となったものの、北米、中南米、アフリカなどで増収。

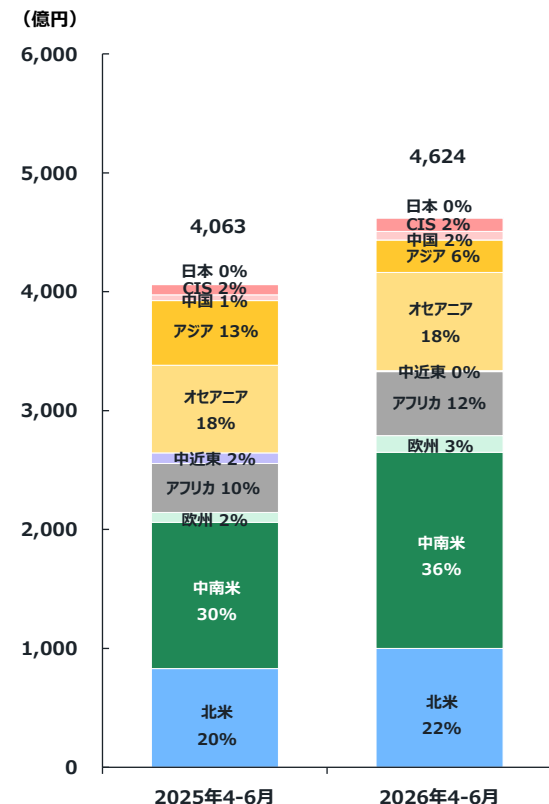
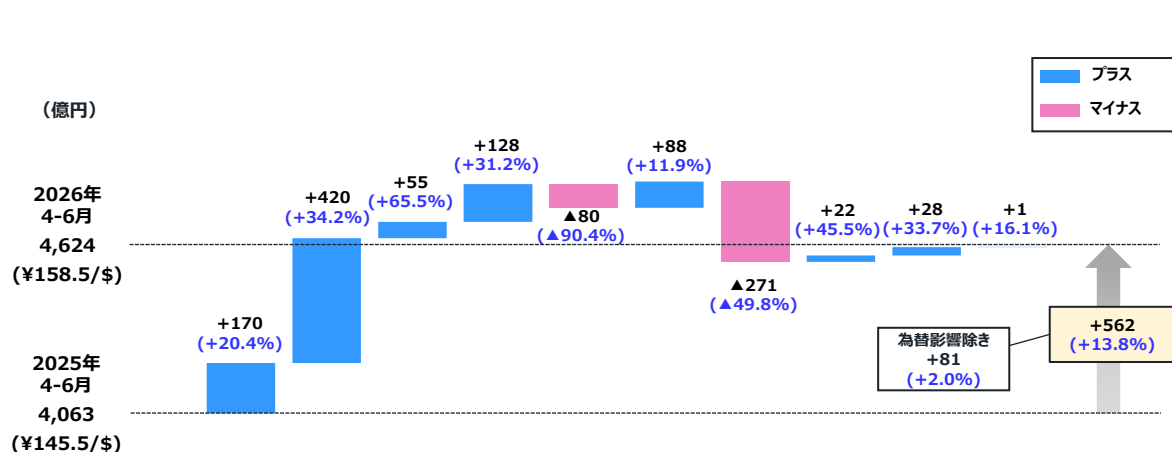


(億円)	米州		欧州 アフリカ 中近東			オセアニア アジア CIS				日本	合計
	北米	中南米	欧州	アフリカ	中近東	オセアニア	アジア	中国	CIS		
2025年 4-6月	2,234	1,570 ※	864	552 ※	247	966	995	182	132	682	8,423
2026年 4-6月	2,892	2,154	964	726	112	1,121	700	220	161	600	9,650
増減	+658	+584	+100	+174	▲ 135	+155	▲ 295	+38	+29	▲ 82	+1,228
増減 (為替影響除き)	+420	+404	▲ 11	+78	▲ 144	▲ 33	▲ 335	+10	+8	▲ 82	+314

※“中近東”に含まれていた一部地域をFY26より“欧州”に組み替え。FY25を遡及して組み替えている。

<建設機械・車両>（鉱山機械）2026年度 第1四半期（4-6月）の地域別売上高（外部顧客向け）

- ・外部顧客向け売上高は、前年同期比+13.8%増収の4,624億円。為替影響を除くと、前年同期比+2.0%の増収。
- ・アジア、中近東で減収となったものの、中南米、北米、アフリカなどで増収。

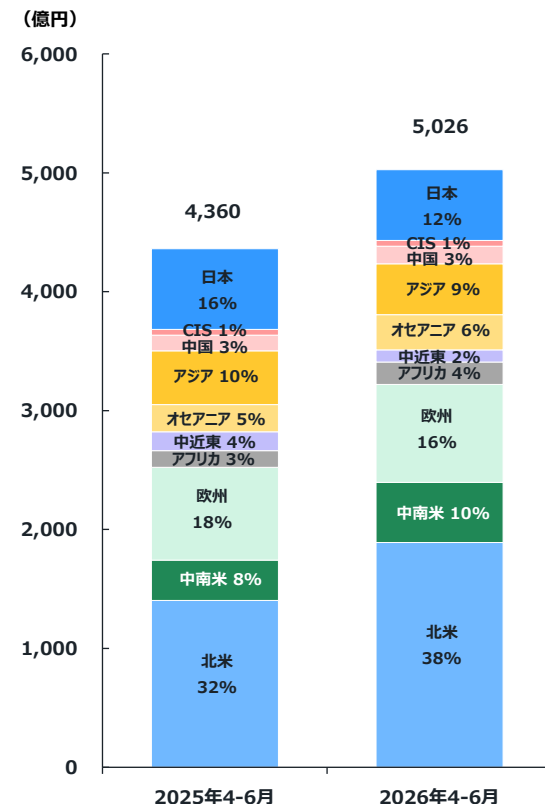
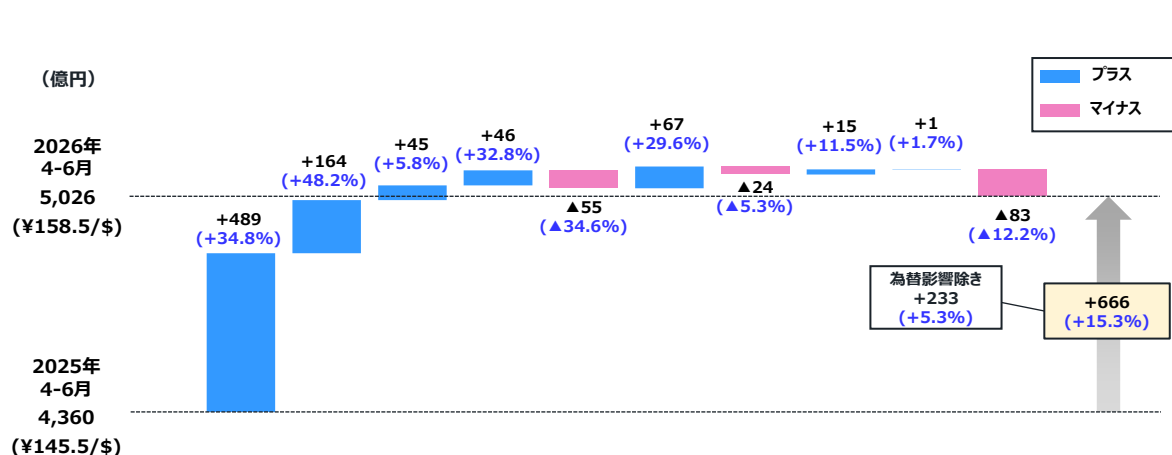


（億円）	米州		欧州 アフリカ 中近東			オセアニア アジア CIS				日本	合計
	北米	中南米	欧州	アフリカ	中近東	オセアニア	アジア	中国	CIS		
2025年 4-6月	831	1,229 ※	84	410 ※	89	738	544	49	84	4	4,063
2026年 4-6月	1,001	1,650	139	538	9	826	273	72	113	5	4,624
増減	+170	+420	+55	+128	▲ 80	+88	▲ 271	+22	+28	+1	+562
増減 （為替影響除き）	+85	+285	+41	+57	▲ 81	▲ 49	▲ 288	+15	+14	+1	+81

※“中近東”に含まれていた一部地域をFY26より“欧州”に組み替え。FY25を遡及して組み替えている。

<建設機械・車両>（一般建機）2026年度 第1四半期（4-6月）の地域別売上高（外部顧客向け）

- ・外部顧客向け売上高は、前年同期比+15.3%増収の5,026億円。為替影響を除くと、前年同期比+5.3%の増収。
- ・日本、中近東、アジアで減収となったものの、北米、中南米などで増収。

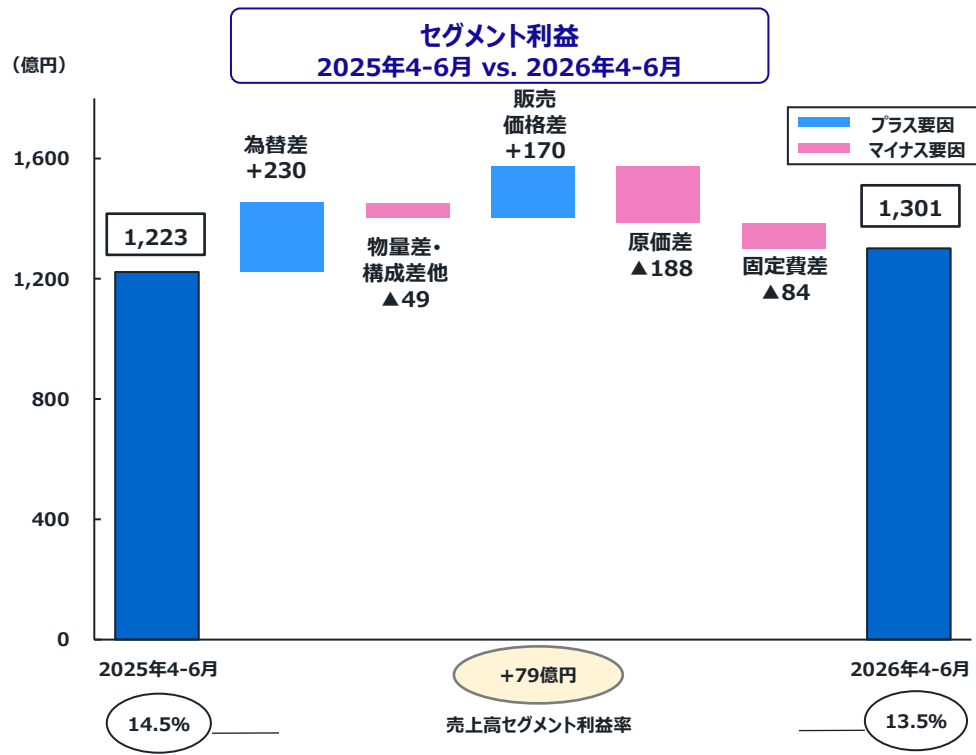
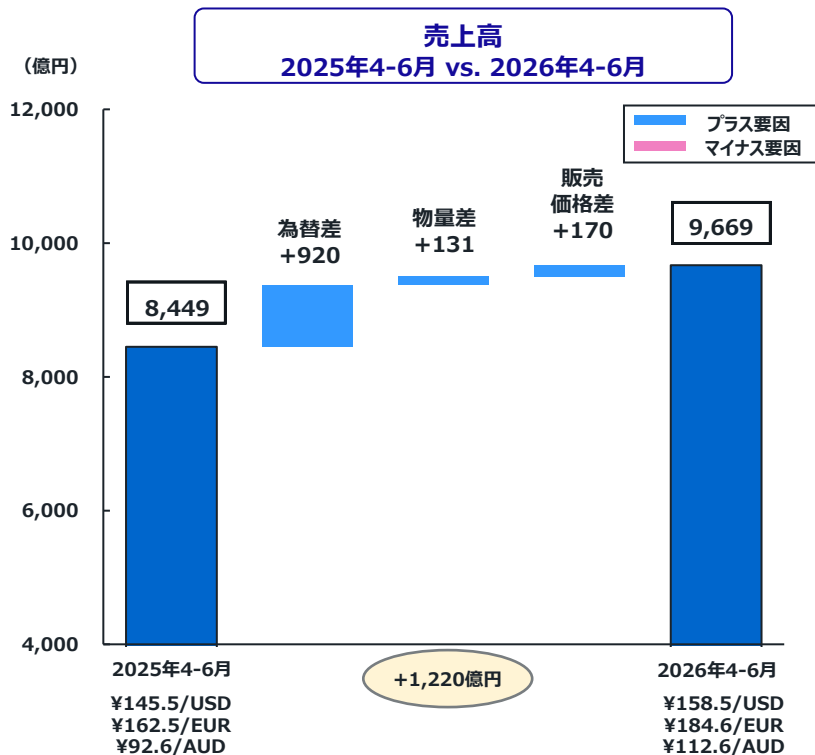


（億円）	米州		欧州 アフリカ 中近東			オセアニア アジア CIS				日本	合計
	北米	中南米	欧州	アフリカ	中近東	オセアニア	アジア	中国	CIS		
2025年 4-6月	1,403	340 ※	780	142 ※	158	228	451	133	47	678	4,360
2026年 4-6月	1,891	504	824	188	104	295	427	148	48	596	5,026
増減	+489	+164	+45	+46	▲ 55	+67	▲ 24	+15	+1	▲ 83	+666
増減 （為替影響除き）	+334	+119	▲ 53	+21	▲ 63	+16	▲ 47	▲ 5	▲ 6	▲ 83	+233

※“中近東”に含まれていた一部地域をFY26より“欧州”に組み替え。FY25を遡及して組み替えている。

<建設機械・車両> 2026年度 第1四半期（4-6月）の売上高とセグメント利益の増減要因

- ・売上高は、円安と物量増および販売価格改善のプラス影響により、前年同期比+1,220億円の増収。
- ・セグメント利益は、円安と物量増および販売価格改善のプラス影響が、構成差やコスト増などのマイナス影響を上回り、前年同期比+79億円の増益。
- ・売上高セグメント利益率は、前年同期比▲1.0ポイント低下し13.5%。

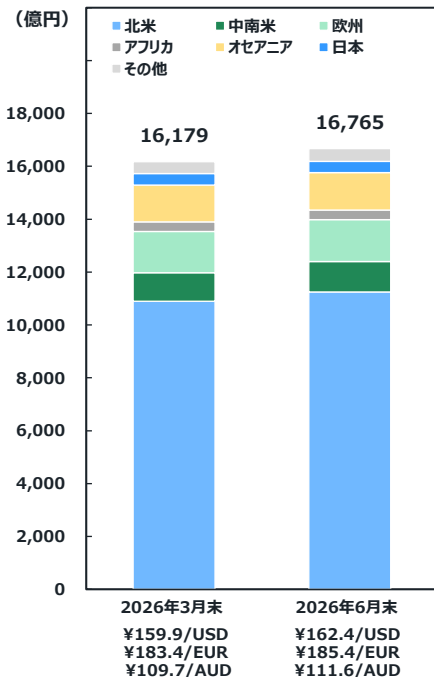


<リテールファイナンス> 2026年度 第1四半期（4-6月）の状況

- ・ 資産は、新規取組高の増加や円安影響により、前年度末比+586億円の増加。
- ・ 新規取組高は、主に北米、欧州、オセアニア、アフリカでのファイナンス利用増により、前年同期比+565億円の増加。
- ・ 売上高、セグメント利益は、主に円安の影響および資産の拡大により、前年同期比で+23億円の増収、+3億円の増益。

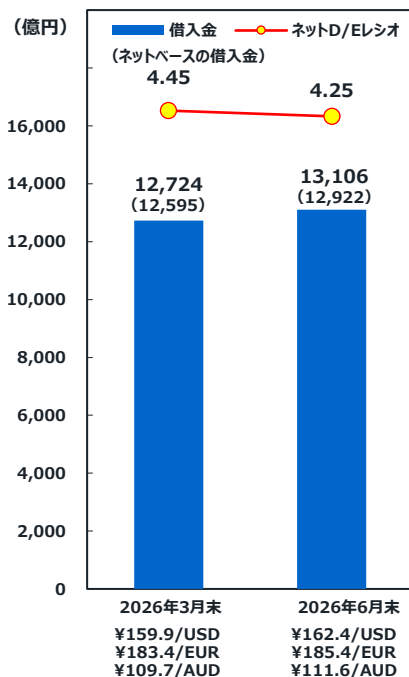
資産

2026年3月末 vs. 2026年6月末



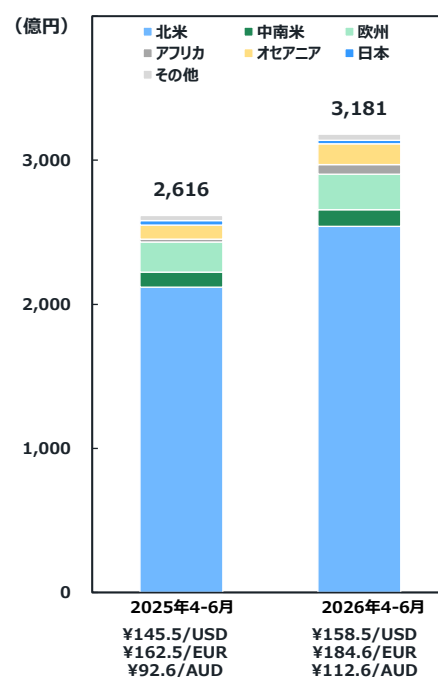
借入金

2026年3月末 vs. 2026年6月末



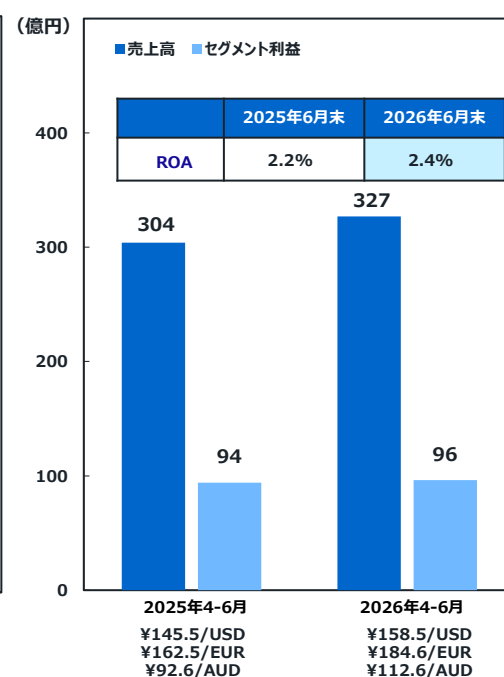
新規取組高

2025年4-6月 vs. 2026年4-6月



収益

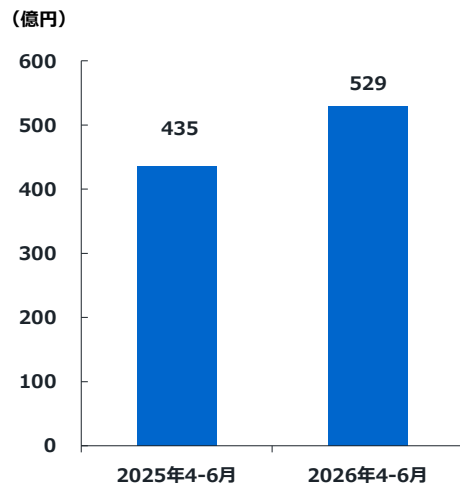
2025年4-6月 vs. 2026年4-6月



<産業機械他> 2026年度 第1四半期（4-6月）の状況

- ・売上高は、前年同期比+21.7%増収の529億円。セグメント利益は、前年同期比+25.1%増益の90億円。
- ・自動車産業向けは、主に大型プレスの販売が増加、半導体産業向けは、主にエキシマレーザーのメンテナンス売上が増加し、全体では増収増益。
- ・売上高セグメント利益率は、前年同期比+0.4ポイント上昇し17.0%。

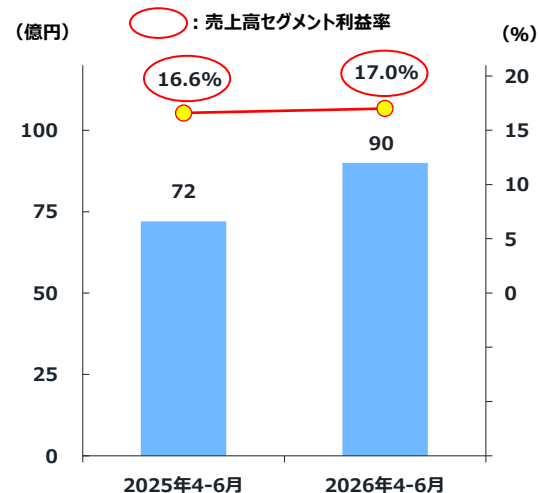
売上高
2025年4-6月 vs. 2026年4-6月



売上高の内訳

(億円)	2025年4-6月	2026年4-6月	前年同期比	
			増減	増減率
コマツ産機	117	154	+38	+32.2%
コマツNTC	86	76	▲10	▲11.4%
ギガフォトン	160	196	+36	+22.5%
その他	72	102	+31	+42.8%
合 計	435	529	+94	+21.7%

セグメント利益
2025年4-6月 vs. 2026年4-6月



連結貸借対照表とフリー・キャッシュ・フロー（FCF）

- ・総資産は、主に現金・預金、棚卸資産の増加により、前年度末比+3,586億円増加の6兆7,826億円。
- ・棚卸資産は、前年度末比+1,133億円増加の1兆7,152億円。株主資本比率は、前年度末比▲2.9ポイント低下し51.8%。
- ・FCFの2026年度第1四半期（3ヶ月）実績は、16億円の支出。

連結貸借対照表

金額単位：億円 ○：ネットD/Eレシオ	2026年3月末 ¥159.9/USD ¥183.4/EUR ¥109.7/AUD	2026年6月末 ¥162.4/USD ¥185.4/EUR ¥111.6/AUD	増減
現金・預金（含む定期預金）[a]	4,397	5,719	+1,322
受取手形・売掛金（含む長期売上債権）	23,368	23,645	+277
棚卸資産	16,019	17,152	+1,133
有形固定資産	9,824	10,016	+191
その他資産	10,631	11,294	+663
資産合計	64,239	67,826	+3,586
支払手形・買掛金	3,555	3,689	+134
借入金・社債 [b]	13,410	16,436	+3,026
その他負債	10,190	10,599	+409
負債合計	27,155	30,724	+3,569
（株主資本比率）	（54.7%）	（51.8%）	（▲2.9ポイント）
株主資本	35,108	35,154	+47
非支配持分	1,977	1,948	▲29
負債及び純資産合計	64,239	67,826	+3,586
ネットD/Eレシオ （リテールファイナンス会社を除いた場合）	0.26	0.30	
ネットD/Eレシオ （リテールファイナンス会社を除いた場合）	▲0.11	▲0.07	

FCF

金額単位：億円	2025年度 /通期	2026年度 4-6月	2026年度 /通期 （見通し）
営業CF	+4,490	+651	+4,700
運転資本	▲1,324	▲654	▲1,100
その他	+5,813	+1,305	+5,800
投資CF	▲1,992	▲668	▲2,100
FCF	+2,497	▲16	+2,600

Ⅱ．2026年度の業績見通し

2026年度の業績見通し

- ・ 4月28日に公表した業績見通しに対し、中東情勢の影響、米国関税の影響を見直すとともに最新の市場見通しを反映し、売上高および利益を上方修正。
- ・ 売上高は、前年比+4.1%増収の4兆3,020億円（4月公表から+1,840億円上方修正）。
- ・ 営業利益は、前年比▲2.2%減益の5,550億円。売上高営業利益率は、前年比▲0.8ポイント低下し12.9%（4月公表から+470億円上方修正）。
- ・ 純利益は、前年比▲7.3%減益の3,490億円（4月公表から+310億円上方修正）。

(※1) 2Q以降為替の前提：1ドル:150円、1ユーロ:174円、1豪ドル106円

金額単位：億円	2025年度 (A) ¥150.5/USD ¥173.8/EUR ¥99.2/AUD	2026年度 (最新見通し) (B) ¥152.1/USD ¥176.6/EUR ¥107.6/AUD	2026年度 (4月見通し) (C) ¥150.0/USD ¥174.0/EUR ¥106.0/AUD	業績見通し 修正額 (B) - (C)	前年比 (B) - (A)	
				増減	増減	増減率
売上高	41,328	43,020	41,180	+1,840	+1,692	+4.1%
セグメント利益	5,712	5,600	5,140	-	▲ 112	▲ 2.0%
その他の営業収益(▲費用)	▲ 38	▲ 50	▲ 60	-	▲ 12	-
営業利益	5,673	5,550	5,080	+470	▲ 123	▲ 2.2%
売上高営業利益率	13.7%	12.9%	12.3%	-	▲ 0.8ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲ 301	▲ 470	▲ 420	-	▲ 169	-
税引前当期純利益	5,373	5,080	4,660	+420	▲ 293	▲ 5.4%
当社株主に帰属する当期純利益	3,764	3,490	3,180	+310	▲ 274	▲ 7.3%

ROE	11.3%	(※2)	10.1%	(※2)	9.1%	+1.0ポイント	▲ 1.2ポイント
1株当たり配当金（円）	190円		190円		190円	±0円	±0円
連結配当性向	45.9%	(※2)	48.6%	(※2)	53.8%		

(※2) 自己株式取得の影響を考慮していない

売上高・営業利益への為替感応度（1円変動/年）

	売上高	営業利益
USD	149億円	45億円
EUR	31億円	6億円
AUD	42億円	3億円

2026年度の業績見通しに織り込んだ影響

		【前回】26年4月公表
中東情勢	前提	■ 中東情勢の影響と石油価格の高騰、サプライチェーンの混乱が年間を通して継続する。
	売上減	▲901億円 ・中近東地域の需要の減少。 ・中近東からの石油依存度の高い国/地域の需要減少。
	コスト増	+188億円（損） ・燃料、油脂、塗料、ナフサ等、調達コストアップ。 ・燃料価格高騰に伴う海上輸送費コストアップ。
米国関税	前提	■ 122条追加関税は年間を通して、鉄鋼アルミ関税見直しは ■ 4月6日より年間を通して適用。
	コスト増	+378億円（損） （25年度 625億円→26年度 1,003億円） ・IEEPA関税は廃止 ・122条追加関税の税率 10% ・鉄鋼アルミ関税は、通関価格に対し派生品25%、鉄アルミ製品50%（含有量計算は廃止） ・IEEPA関税の還付金300億円を織り込み

		【最新】26年7月見直し
		■ ホルムズ海峡封鎖に伴う代替輸送ルートを活用。 平常時レベルの輸送力までは戻らないがデリバリーは継続。 ■ プロジェクトは遅延は見られるものの継続。
		▲463億円 ・中近東地域の需要の減少幅は当初想定を下回る。 ・アジア各国での需要減少は限定的。アフリカ各国の需要減は見られず。
		+232億円（損） ・燃料、油脂、塗料、ナフサ等、調達コストアップ。 ・燃料価格高騰に伴う海上輸送費コストアップ。 ・物流ルート変更による中近東地域追加陸送費。
		■ 122条追加関税は7/23で失効。301条追加関税が7/24より適用。 ■ 鉄鋼アルミ関税見直しは4月6日より年間を通して適用。
		+258億円（損） （25年度 625億円→26年度 883億円） ¥150/USD （25年度 642億円→26年度 891億円） 実績レート ・IEEPA関税は廃止 ・122条追加関税の税率 10% ・301条追加関税の税率 日本/中国/韓国 他 12.5%、ブラジル 37.5% ・鉄鋼アルミ関税税率6/8より引き下げ：日・英・EU・韓など25%→15% （含有量計算は廃止） ・IEEPA関税の還付金300億円を織り込み

2026年度の各セグメント売上高と利益の見通し

- ・建設機械・車両部門の売上高は、前年比+4.3%増収の3兆9,700億円。セグメント利益は、前年比▲2.1%減益の4,810億円。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は、前年比+1.9%増収の1,285億円。セグメント利益は、前年比▲0.2%減益の365億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、前年比+5.5%増収の2,520億円。セグメント利益は、前年比+9.4%増益の415億円。

金額単位：億円		2025年度		2026年度 (最新見通し)		2026年度 (4月見通し)		前年比 (B) - (A)	
		(A)		(B)				増減	増減率
売上高		41,328		43,020		41,180		+1,692	+4.1%
	建設機械・車両	(37,961)	38,060	(39,494)	39,700	(37,782)	37,900	(+1,533)	+1,640 (+4.0%) +4.3%
	リテールファイナンス	(1,005)	1,261	(1,028)	1,285	(1,029)	1,275	(+23)	+24 (+2.3%) +1.9%
	産業機械他	(2,361)	2,388	(2,498)	2,520	(2,369)	2,390	(+137)	+133 (+5.8%) +5.5%
消去		▲ 382		▲ 485		▲ 385		▲ 103 -	
セグメント利益		13.8%	5,712	13.0%	5,600	12.5%	5,140	▲0.8%△112	▲2.0%
	建設機械・車両	12.9%	4,911	12.1%	4,810	11.6%	4,400	▲0.8%△101	▲2.1%
	リテールファイナンス	29.0%	366	28.4%	365	28.2%	360	▲0.6%△1	▲0.2%
	産業機械他	15.9%	379	16.5%	415	15.5%	370	+0.6%△36	+9.4%
消去または全社		55		10		10		▲ 45 -	

各セグメントの状況：

■ 建設機械・車両

売上は、円安と物量増および販売価格改善のプラス影響により増収。

利益は、円安と物量増および販売価格改善のプラス影響があるものの、関税影響の拡大、調達価格上昇等の原価差のマイナス影響により減益。

■ リテールファイナンス

売上は、主に資産の拡大に伴い増収。利益は、主にコスト増加により前年並み。

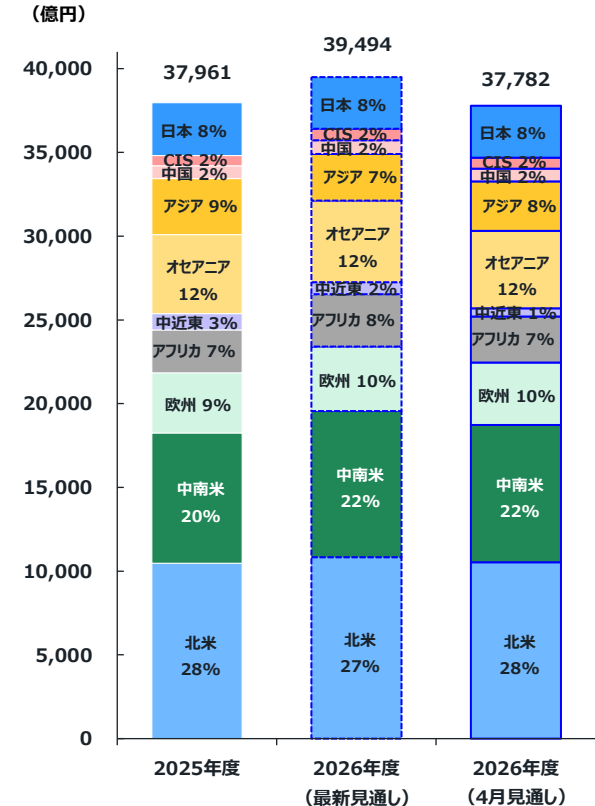
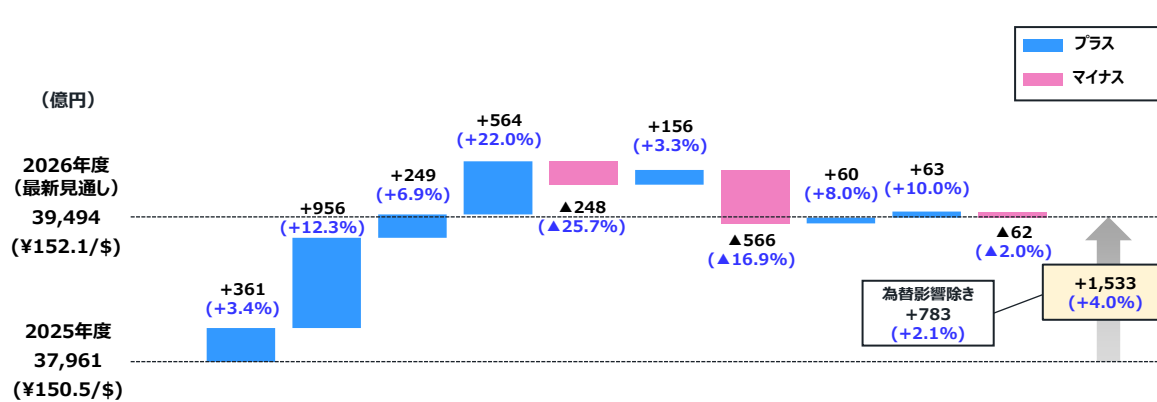
■ 産業機械他

自動車産業向けは、大型プレスの販売が減少する一方、半導体産業向けでは、顧客の増産基調を受けて販売が増加し、全体では増収増益。

% : 利益率 () : 外部顧客向け売上高

<建設機械・車両> 2026年度の地域別売上高（外部顧客向け）の見通し

・外部顧客向け売上高は、前年比+4.0%増収の3兆9,494億円。為替影響を除くと、前年比+2.1%増収の見通し。

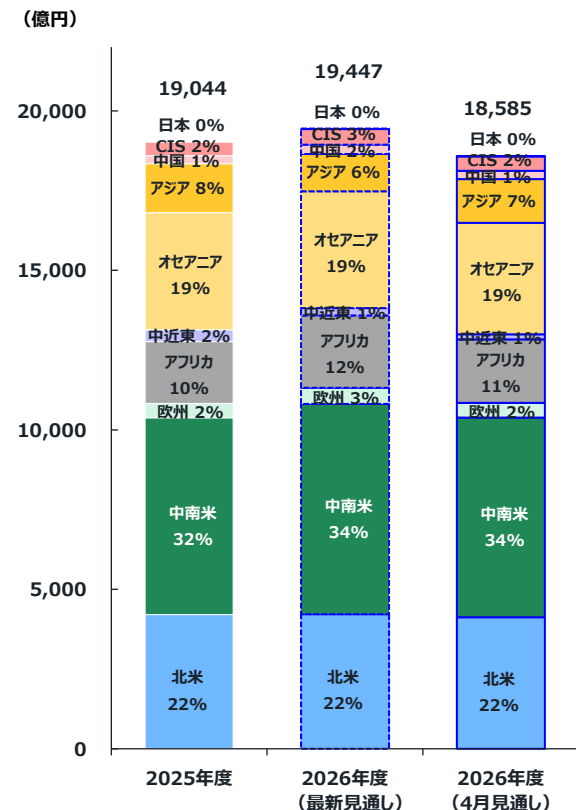
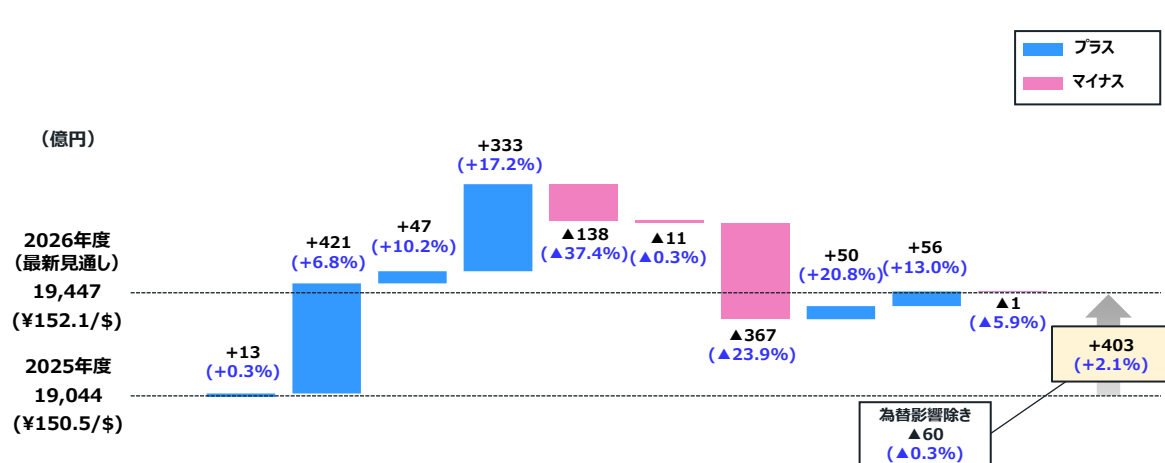


(億円)	米州		欧州 アフリカ 中近東			オセアニア アジア CIS				日本	合計
	北米	中南米	欧州	アフリカ	中近東	オセアニア	アジア	中国	CIS		
2025年度	10,472	7,769	※3,600	2,563	※965	4,716	3,349	757	625	3,145	37,961
2026年度 (最新見通し)	10,833	8,725	3,849	3,126	717	4,872	2,783	818	687	3,083	39,494
増減	+361	+956	+249	+564	▲248	+156	▲566	+60	+63	▲62	+1,533
増減 (為替影響除き)	+240	+854	+228	+457	▲254	▲171	▲567	+24	+34	▲62	+783

※“中近東”に含まれていた一部地域をFY26より“欧州”に組み替え。FY25を遡及して組み替えている。

<建設機械・車両>（鉱山機械）2026年度の地域別売上高（外部顧客向け）の見通し

- ・外部顧客向け売上高は、前年比+2.1%増収の1兆9,447億円。為替影響を除くと、前年比▲0.3%減収の見通し。
- ・アジアでの石炭向け需要減少・中近東での中東情勢の影響による減収を、銅・金鉱山向け需要が堅調な中南米やアフリカの増収で補い、全体では前年並み。

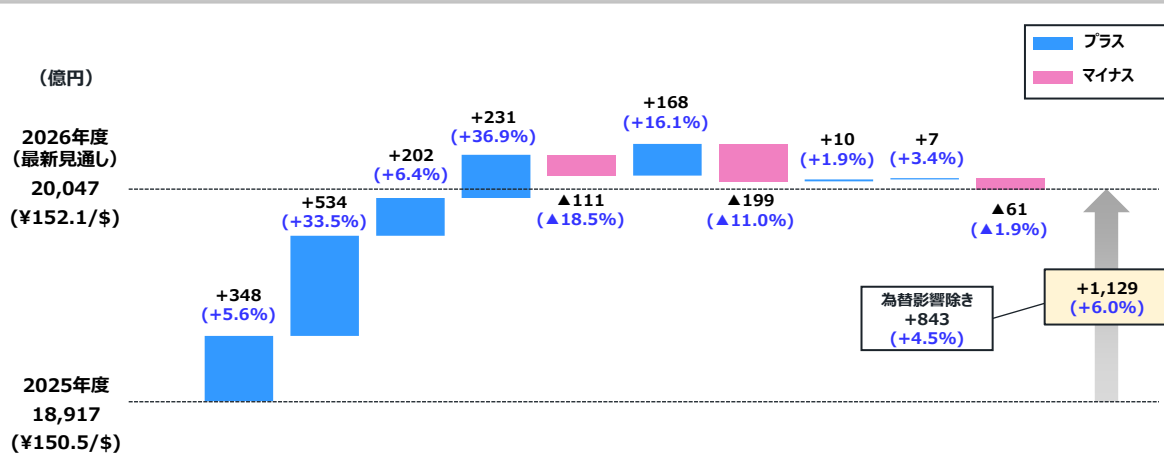


(億円)	米州		欧州 アフリカ 中近東			オセアニア アジア CIS				日本	合計
	北米	中南米	欧州	アフリカ	中近東	オセアニア	アジア	中国	CIS		
2025年度	4,206	6,172 ※	459	1,936 ※	369	3,673	1,536	242	433	18	19,044
2026年度 (最新見通し)	4,219	6,594	506	2,269	231	3,662	1,169	293	489	17	19,447
増減	+13	+421	+47	+333	▲138	▲11	▲367	+50	+56	▲1	+403
増減 (為替影響除き)	▲19	+344	+44	+254	▲138	▲254	▲367	+39	+36	▲1	▲60

※“中近東”に含まれていた一部地域をFY26より“欧州”に組み替え。FY25を遡及して組み替えている。

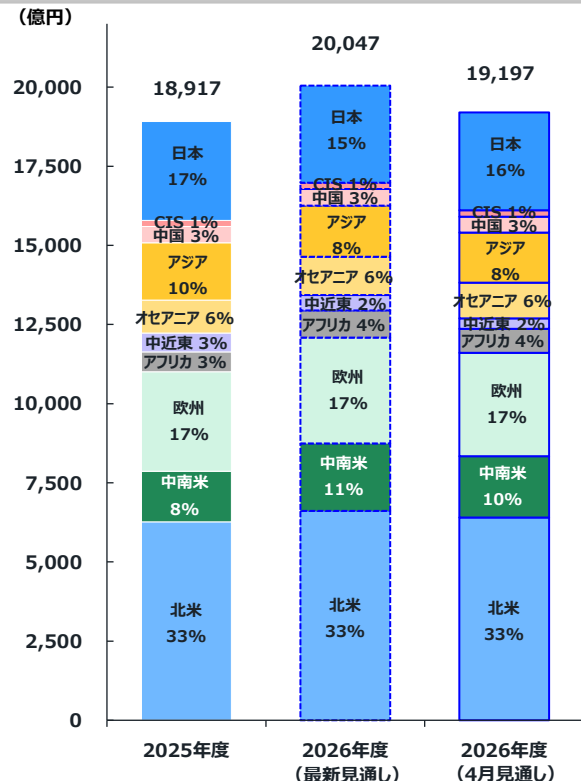
＜建設機械・車両＞（一般建機）2026年度の地域別売上高（外部顧客向け）の見通し

- ・外部顧客向け売上高は、前年比+6.0%増収の2兆47億円。為替影響を除くと、前年比+4.5%増収の見通し。
- ・中東情勢の影響により中近東、アジアなどで減収を見込むも、非住宅やレンタル向け需要が堅調な北米や公共投資が需要を牽引する中南米、アフリカの増収により、全体では増収の見通し。



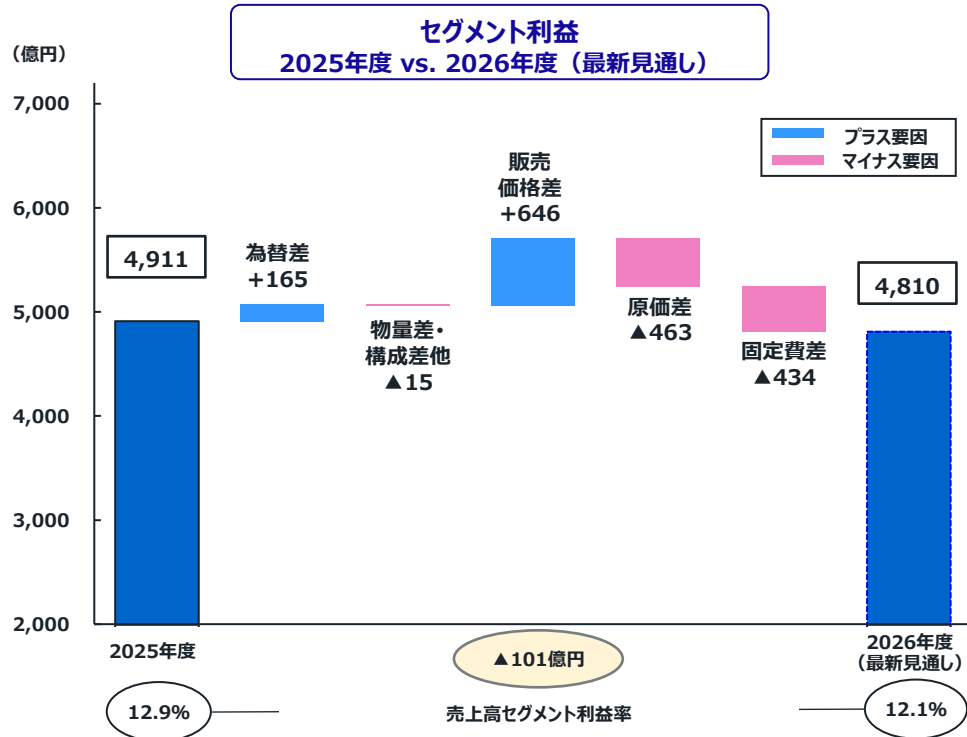
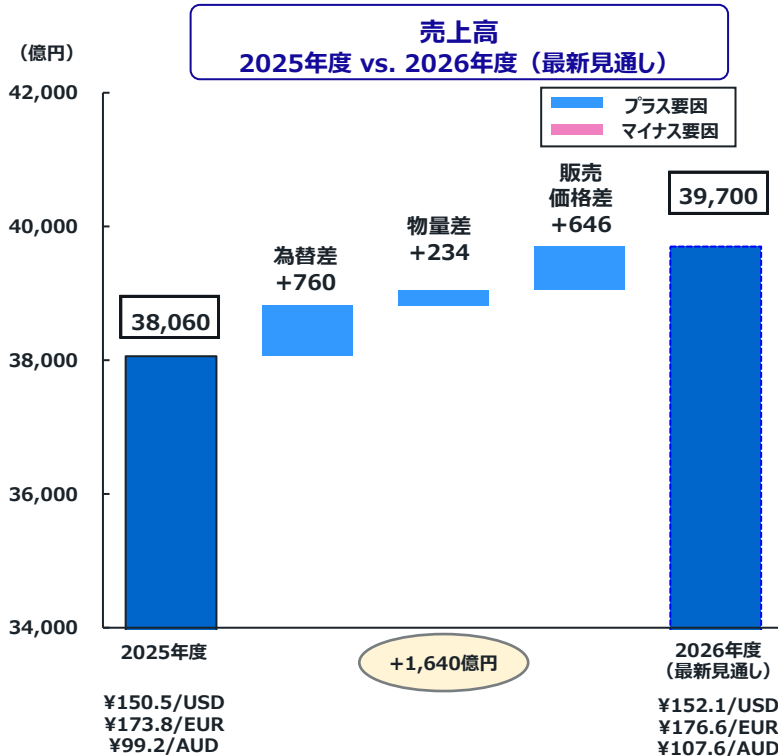
(億円)	米州		欧州 アフリカ 中近東			オセアニア アジア CIS				日本	合計
	北米	中南米	欧州	アフリカ	中近東	オセアニア	アジア	中国	CIS		
2025年度	6,266	1,597	※ 3,141	627	※ 597	1,042	1,814	515	192	3,127	18,917
2026年度 (最新見通し)	6,614	2,131	3,343	858	486	1,210	1,615	525	199	3,067	20,047
増減	+348	+534	+202	+231	▲ 111	+168	▲ 199	+10	+7	▲ 61	+1,129
増減 (為替影響除き)	+259	+510	+184	+203	▲ 116	+83	▲ 200	▲ 15	▲ 3	▲ 61	+843

※“中近東”に含まれていた一部地域をFY26より“欧州”に組み替え。FY25を遡及して組み替えている。



<建設機械・車両> 2026年度の売上高とセグメント利益の見通しの増減要因

- ・売上高は、円安と物量増および販売価格改善のプラス影響により、前年比+1,640億円の増収の見通し。
- ・セグメント利益は、円安と物量増および販売価格改善のプラス影響があるものの、関税影響の拡大、調達価格上昇等の原価差のマイナス影響により、前年比▲101億円の減益の見通し。
- ・売上高セグメント利益率は、前年比▲0.8ポイント低下し12.1%の見通し。

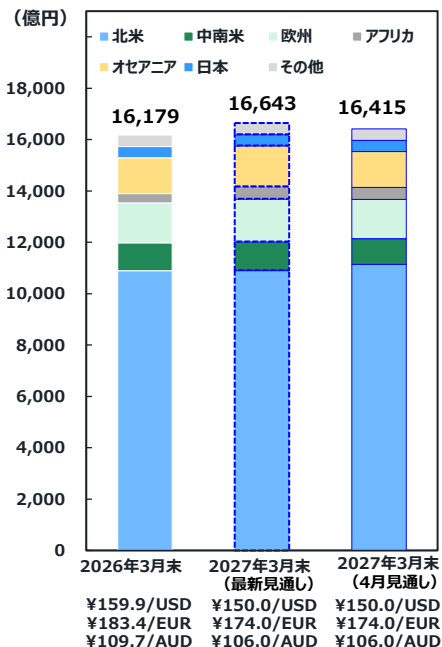


<リテールファイナンス> 2026年度の見通し

- ・資産は、新規取組高の増加により、前年度末比+464億円の増加の見通し。
- ・新規取組高は、北米、欧州、オセアニア、アフリカでのファイナンス利用増により、前年比+633億円の増加の見通し。
- ・売上高は、主に資産の拡大に伴い、前年比+24億円の増収。セグメント利益は、主にコスト増加により、前年並みの見通し。

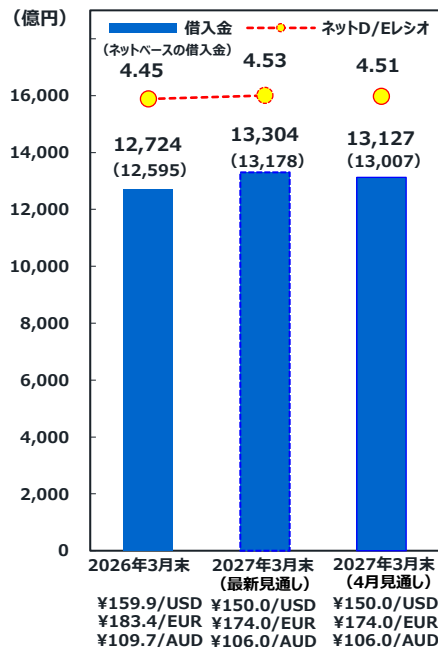
資産

2026年3月末 vs. 2027年3月末
(最新見通し)



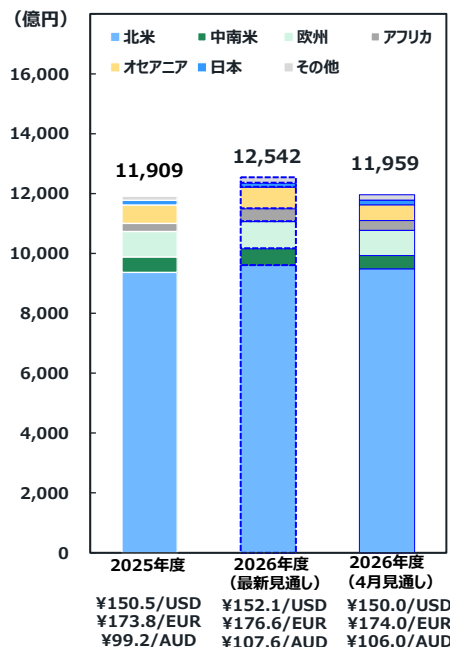
借入金

2026年3月末 vs. 2027年3月末
(最新見通し)



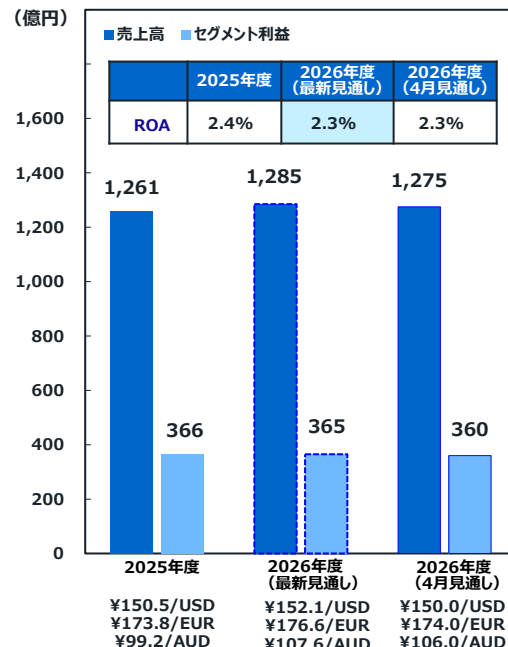
新規取組高

2025年度 vs. 2026年度
(最新見通し)



収益

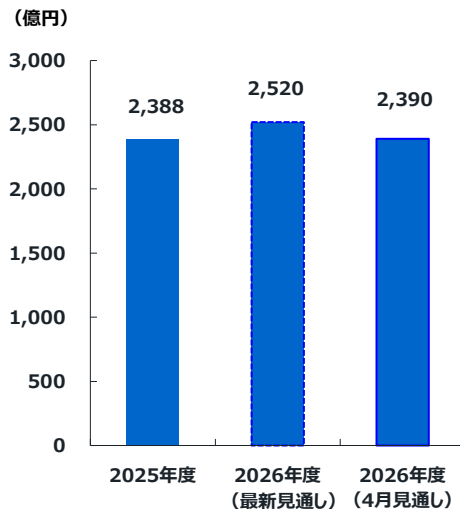
2025年度 vs. 2026年度
(最新見通し)



<産業機械他> 2026年度の見通し

- ・売上高は、前年比+5.5%増収の2,520億円、セグメント利益は、前年比+9.4%増益の415億円となる見通し。
- ・自動車産業向けは、主に大型プレスの販売が減少する一方、半導体産業向けでは、顧客の増産基調を受けて販売が増加し、全体では増収増益となる見通し。
- ・売上高セグメント利益率は、前年比+0.6ポイント上昇し16.5%の見通し。

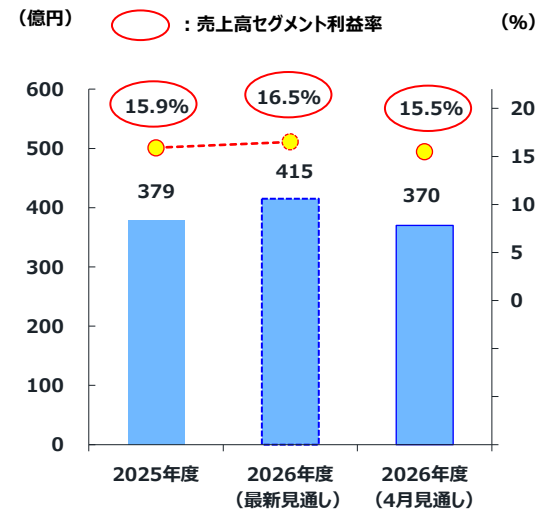
売上高
2025年度 vs. 2026年度（最新見通し）



売上高の内訳

(億円)	2025年度 (A)	2026年度 (最新見通し) (B)	2026年度 (4月見通し)	前年比 (B) - (A)	
				増減	増減率
コマツ産機	691	631	627	▲61	▲8.8%
コマツNTC	476	473	472	▲3	▲0.6%
ギガフォトン	696	842	754	+146	+21.0%
その他	525	574	537	+49	+9.4%
合 計	2,388	2,520	2,390	+133	+5.5%

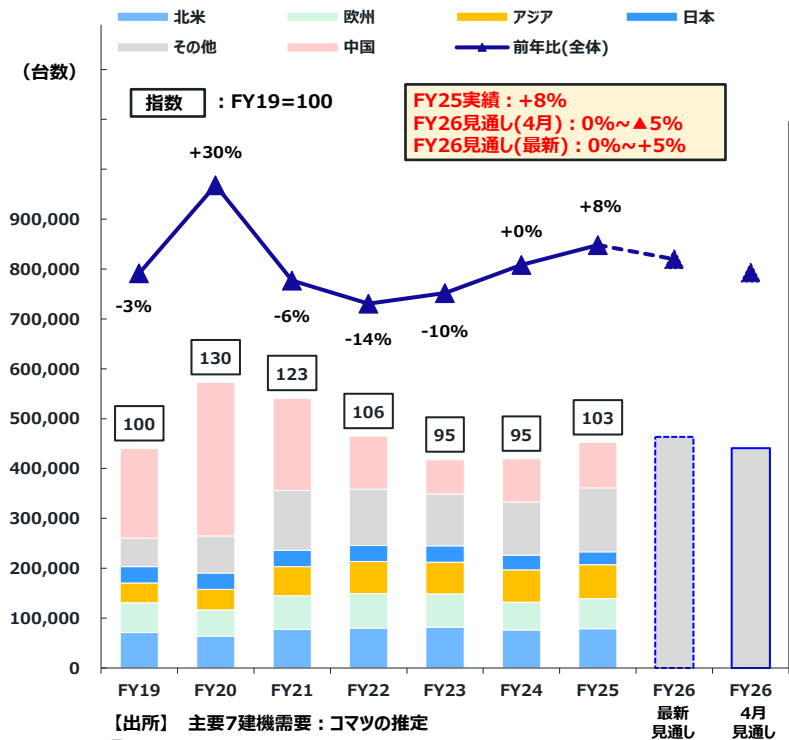
セグメント利益
2025年度 vs. 2026年度（最新見通し）



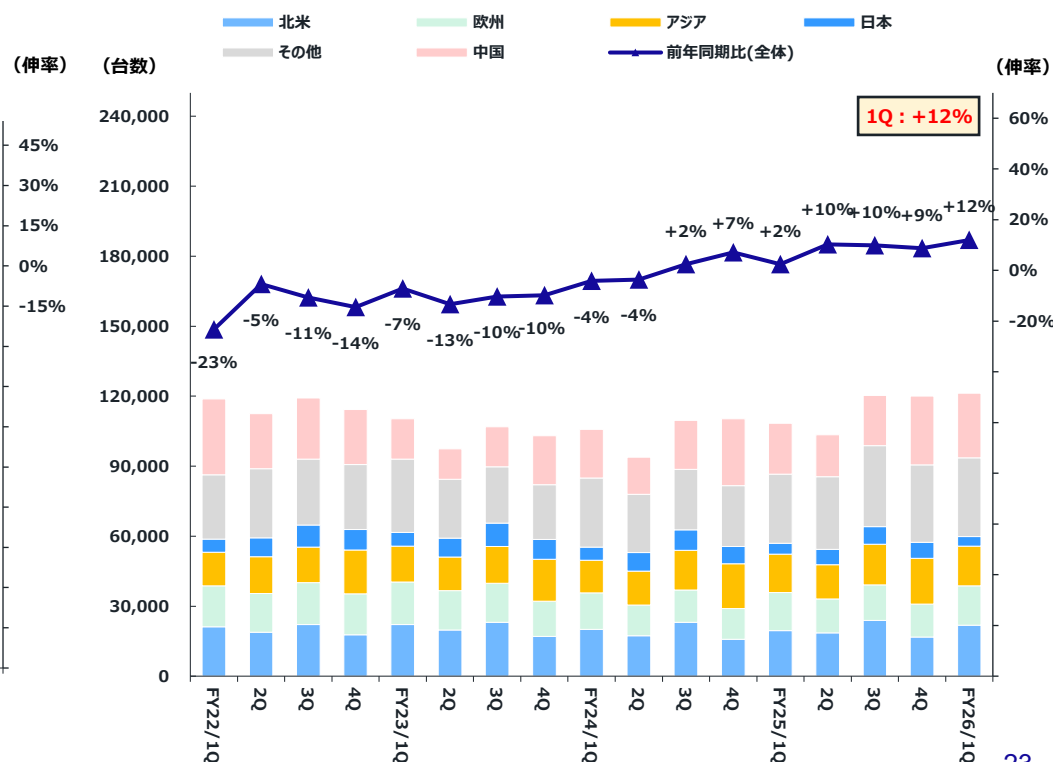
<建設機械・車両> 主要7建機の需要推移と見通し

- ・2026年度第1四半期の需要は、前年同期比+12%の増加。
- ・2026年度の需要は、前年比0%～+5%の見通し（4月見通しより変更）。

主要7建機 年度別需要推移



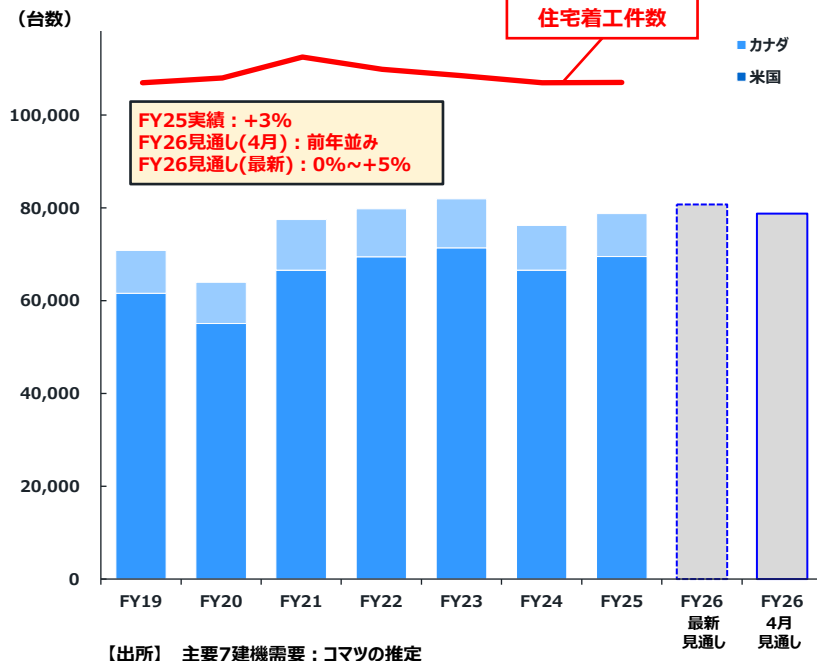
主要7建機 四半期別需要推移



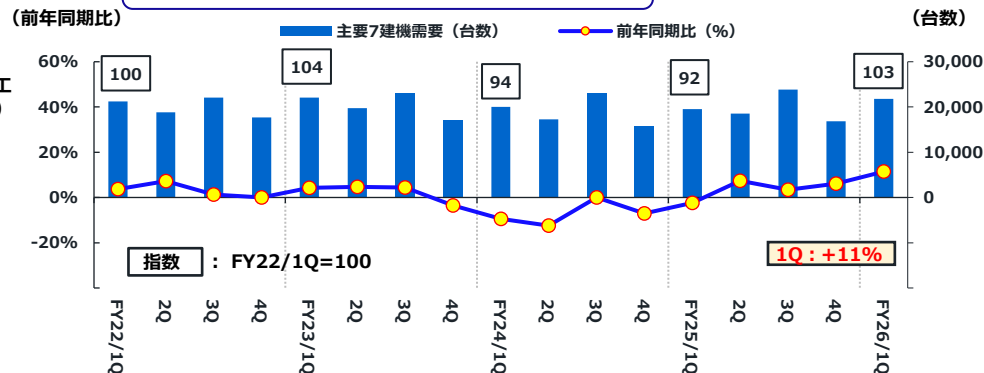
＜建設機械・車両＞ 主要市場の需要推移と見通し：①北米

- ・2026年度第1四半期の需要は、前年同期比+11%の増加。データセンター等の非住宅やレンタル向け需要が堅調に推移。
- ・2026年度の需要は、前年比0%～+5%の見通し（4月見通しより変更）。

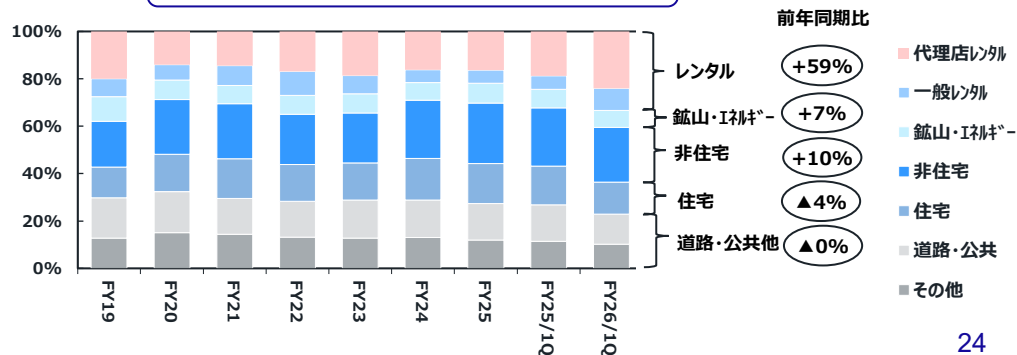
主要7建機 年度別需要推移と住宅着工件数



主要7建機 四半期需要推移



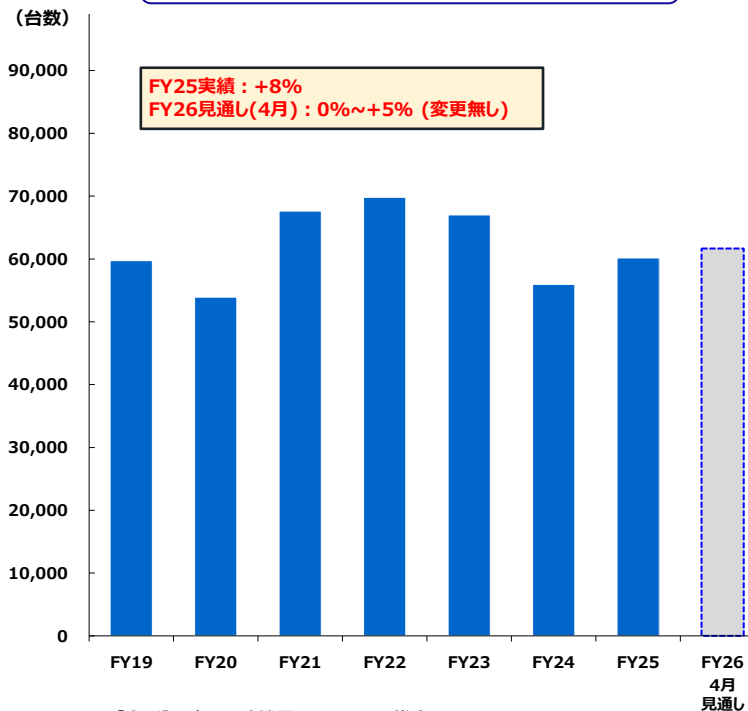
セグメント別需要構成比 (台数ベース)



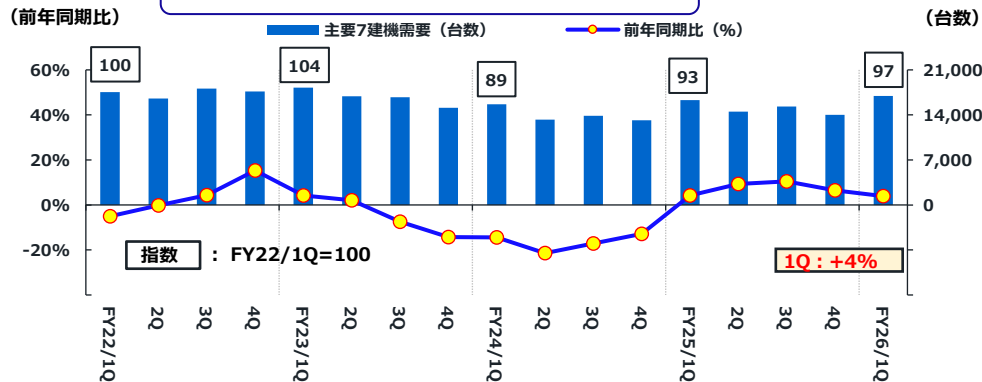
<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：②欧州

- ・2026年度第1四半期の需要は、前年同期比+4%の増加。
- ・2026年度の需要は、前年比0%～+5%の見通し（4月見通しから変更無し）。ドイツ、英国、フランスを中心に、公共投資が需要を牽引。

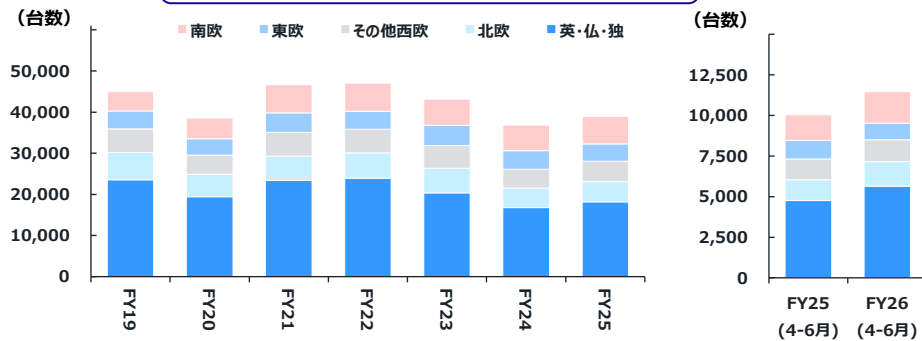
主要7建機 年度別需要推移



主要7建機 四半期需要推移



主要7建機（6tクラス除く）地域別需要

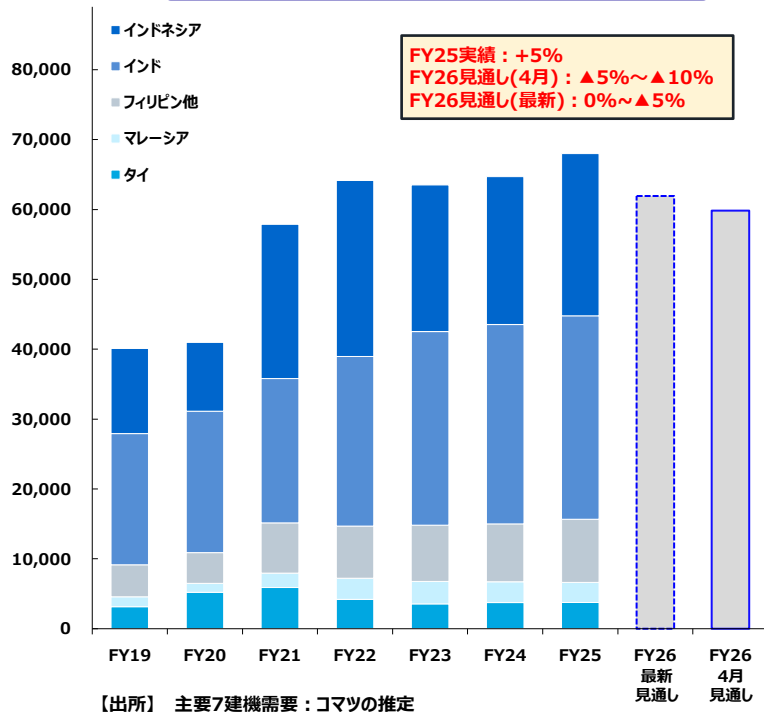


<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：③アジア

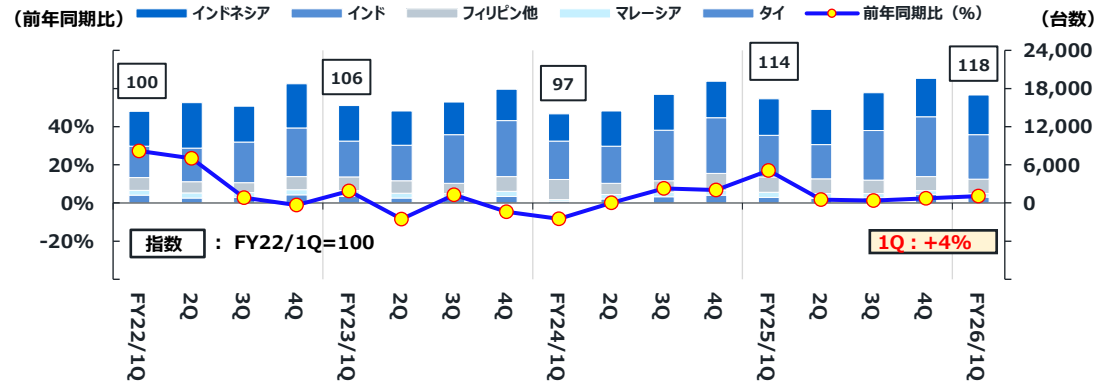
- ・2026年度第1四半期の需要は、前年同期比+4%の増加。
- ・2026年度の需要は、前年比0%～▲5%の見通し（4月見通しより変更）。インドネシアの石炭向け需要は依然低迷しているものの、農業セクター向け需要は伸長。その他のアジア諸国における中東情勢のマイナス影響は当初想定を下回る見通し。インドは公共事業・経済成長に支えられ建機需要は堅調。

(台数)

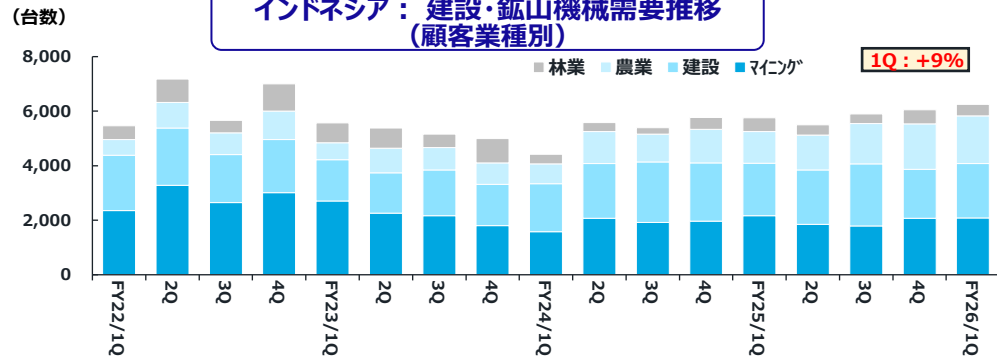
主要7建機 年度別需要推移



主要7建機 四半期需要推移



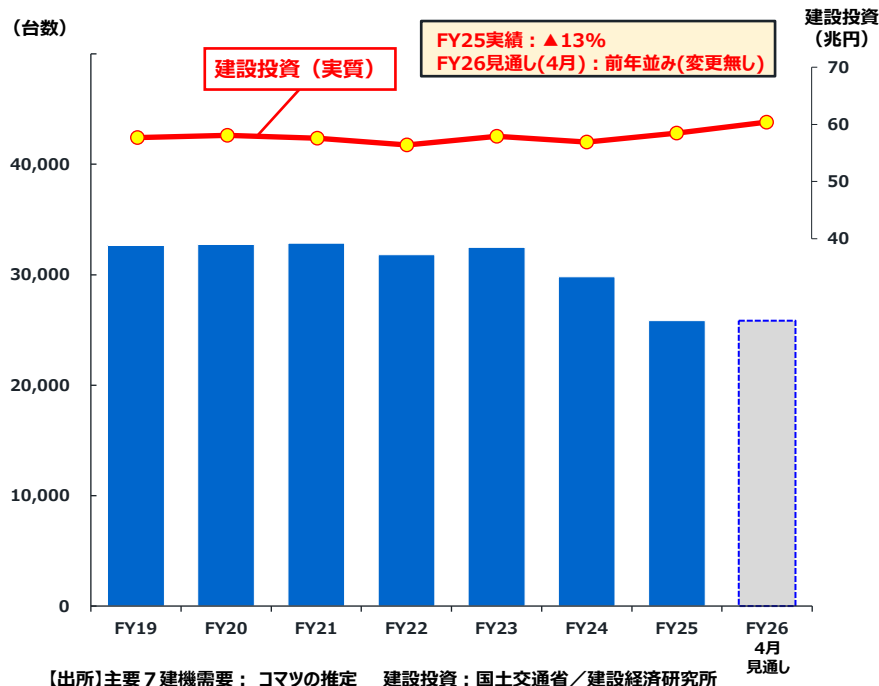
インドネシア：建設・鉱山機械需要推移
(顧客業種別)



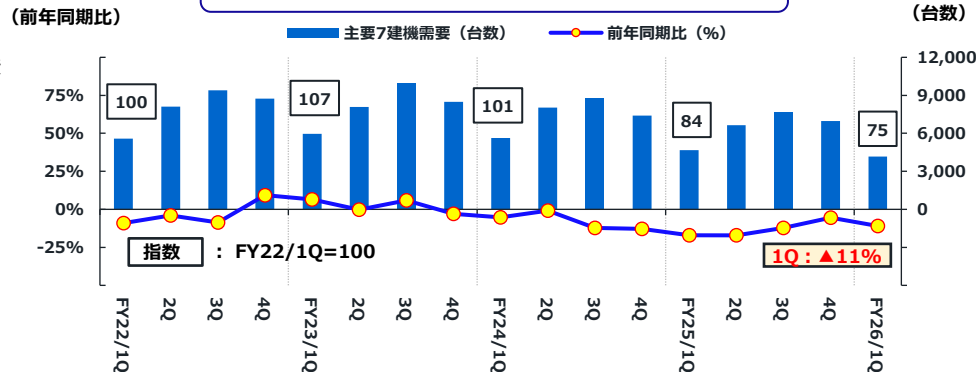
＜建設機械・車両＞ 主要市場の需要推移と見通し：④日本

- ・2026年度第1四半期の需要は、前年同期比▲11%の減少。一般向け、レンタル向けともに需要が引き続き低調。
- ・2026年度の需要は、前年並みの見通し（4月見通しから変更無し）。

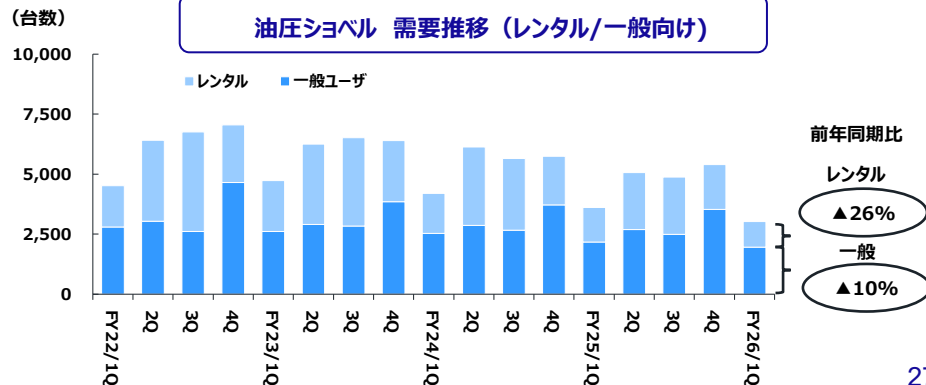
主要7建機 年度別需要推移と建設投資



主要7建機 四半期別需要推移

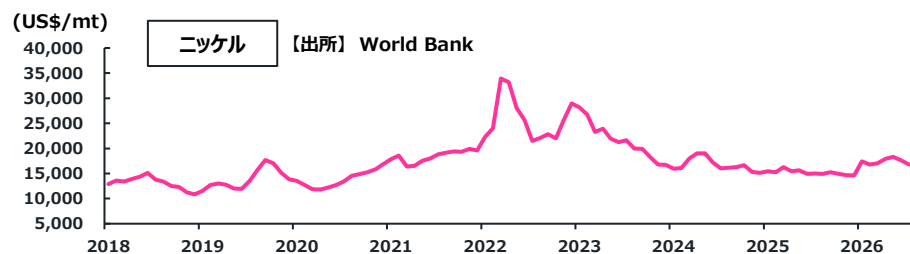
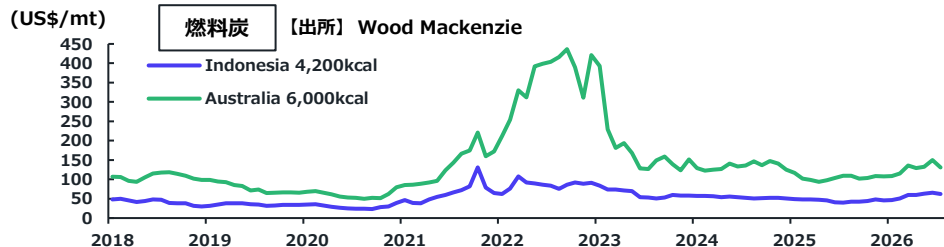
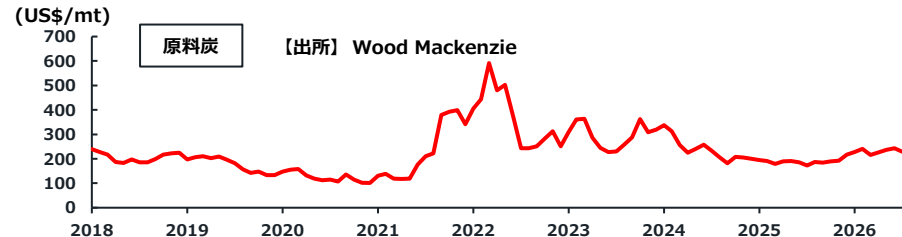
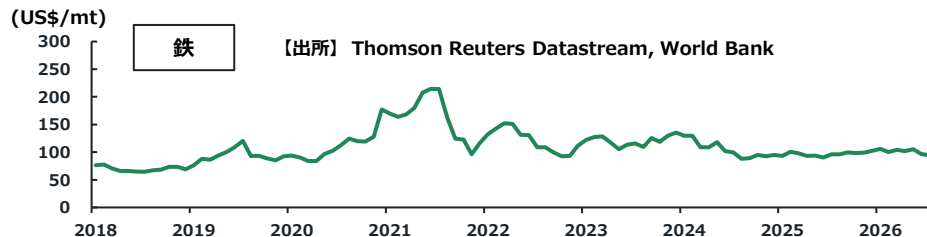
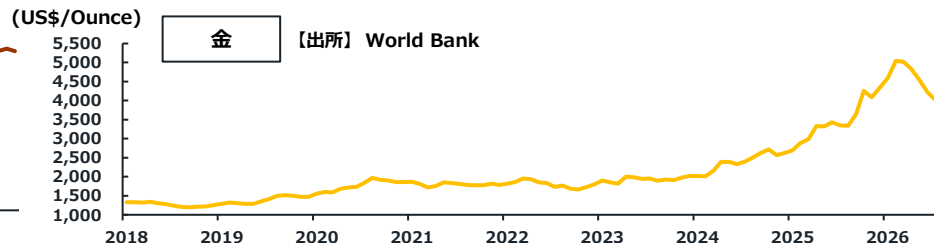
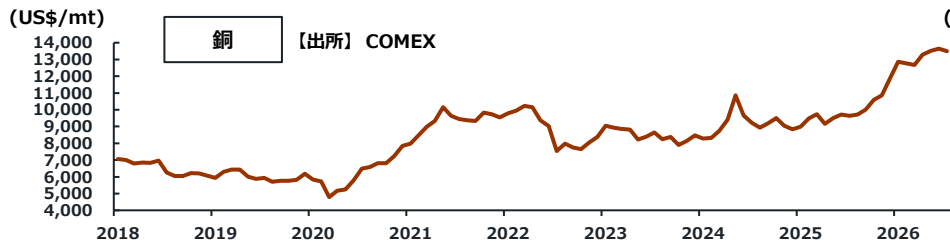


油圧ショベル 需要推移 (レンタル/一般向け)



<建設機械・車両> 主要鉱物の価格推移と見通し

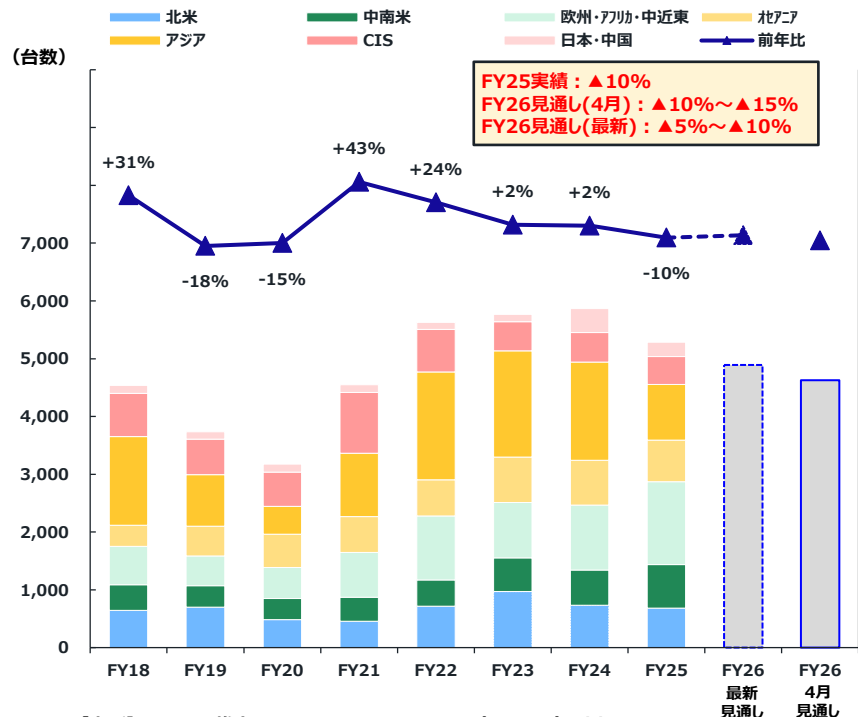
- ・銅は堅調な需要に支えられ高値を維持。金は一時的な調整があるものの長期的に見ると高値の水準を維持。
- ・鉄鉱石/原料炭は、安定的な需要が見込まれ、価格も安定して推移。
- ・燃料炭は、低品位炭、高品位炭ともに中東情勢による原油価格の高騰に伴い足元では上昇傾向。



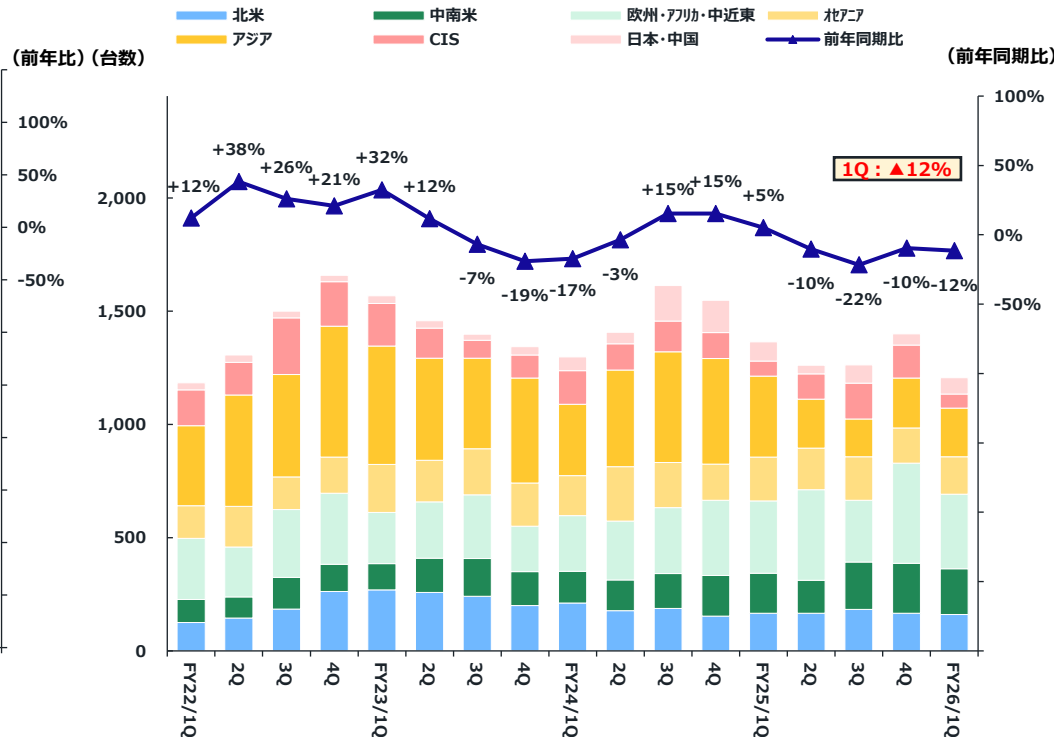
<建設機械・車両> 鉱山機械の需要推移と見通し

- ・2026年度第1四半期の需要は、前年同期比▲12%の減少。
- ・2026年度の需要は、前年比▲5%～▲10%の見通し（4月見通しより変更）。

鉱山機械 年度別需要推移



鉱山機械 四半期別需要推移



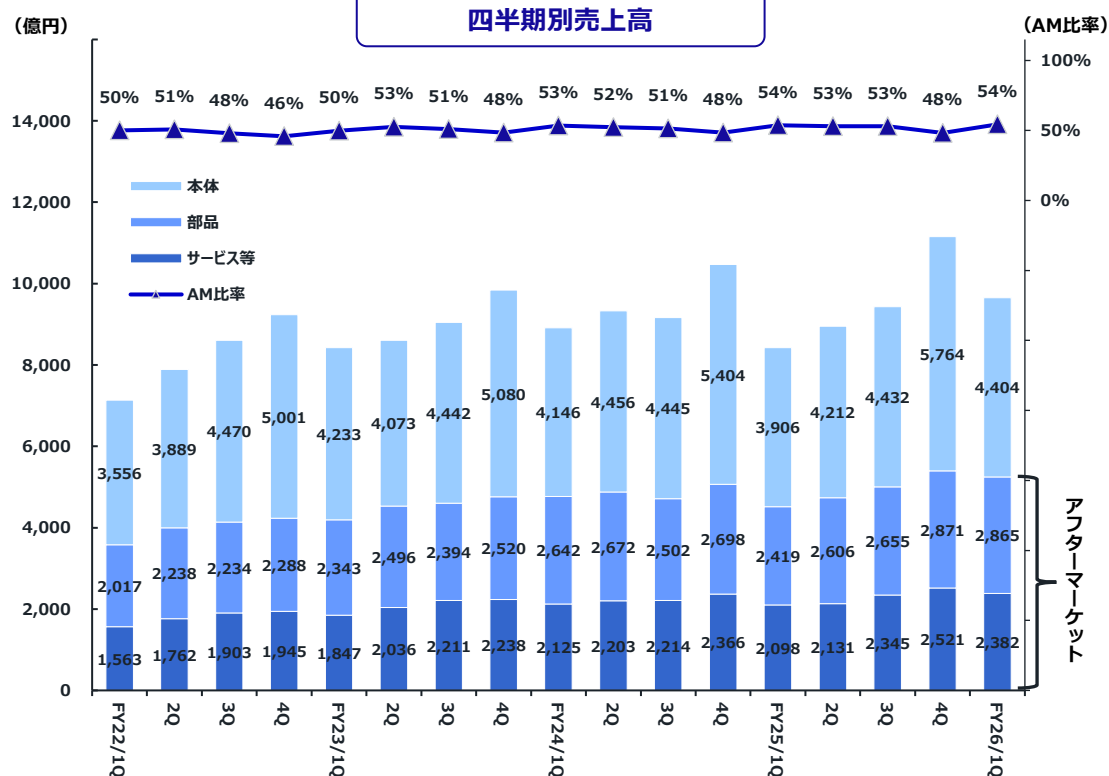
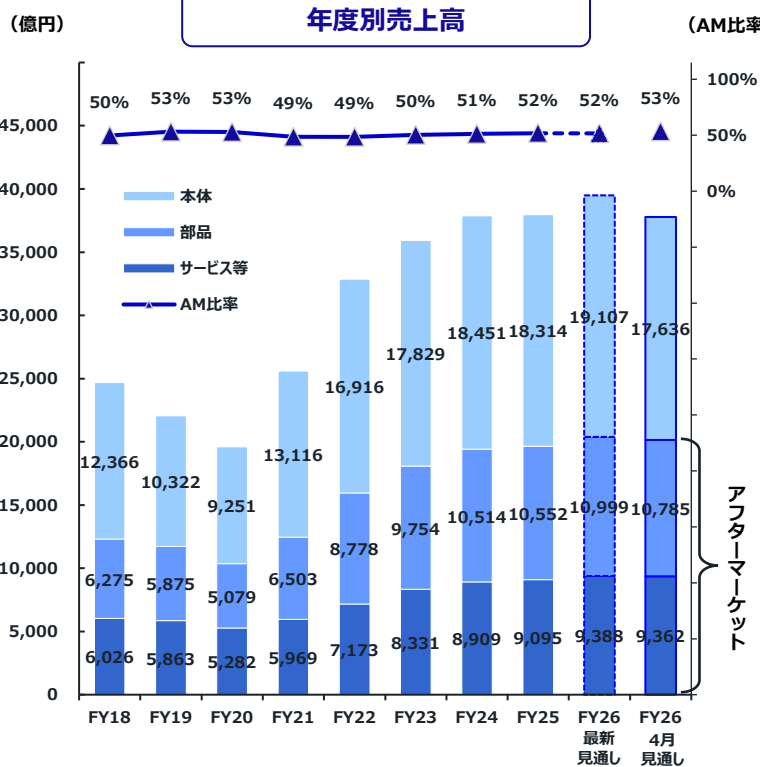
【出所】 コマツの推定

- ・ダンプトラック: 75 t (HD785) 以上
- ・エクスカベーター: 200 t (PC2000) 以上
- ・モーターグレーダー: 280HP (GD825) 以上
- ・フルパワー: 525HP (D375) 以上
- ・ハイパワー: 810HP (WA800) 以上

<建設機械・車両> 本体・部品・サービス等の売上高（外部顧客向け）の見通し

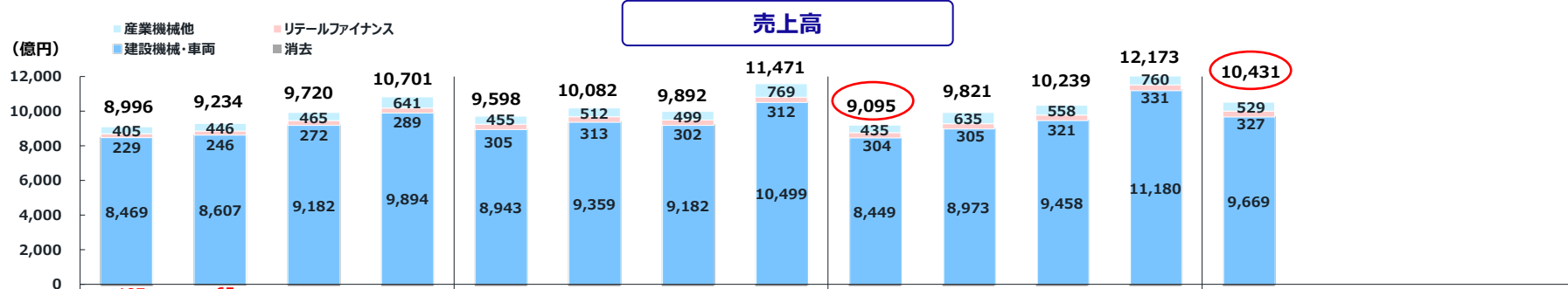
- ・2026年度第1四半期の部品売上高は、前年同期比+18.4%増収の2,865億円。
- ・2026年度の部品売上高は、前年比+4.2%増収の1兆999億円の見通し（4月見通しより変更）。

※アフターマーケット（AM）：部品+サービス等



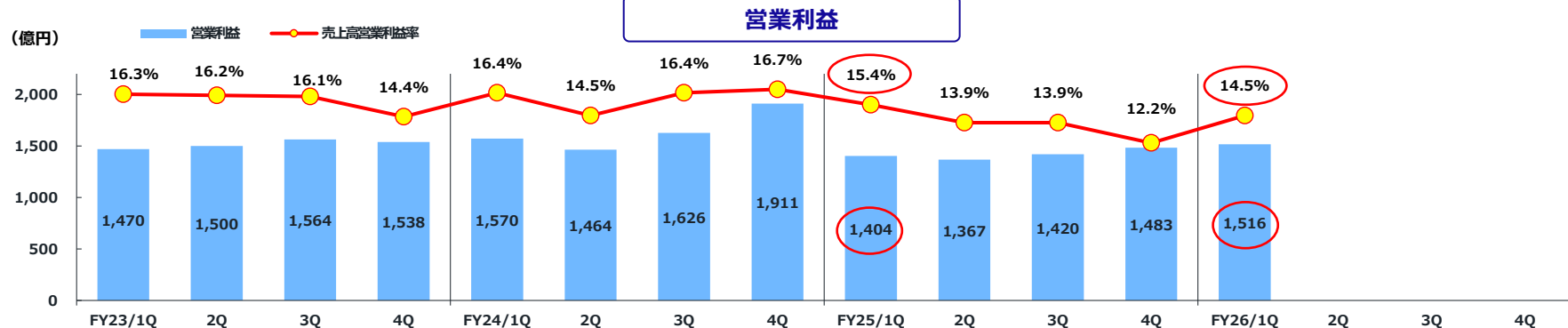
参考資料

【参考資料】四半期毎の売上高と営業利益の推移



為替
レート

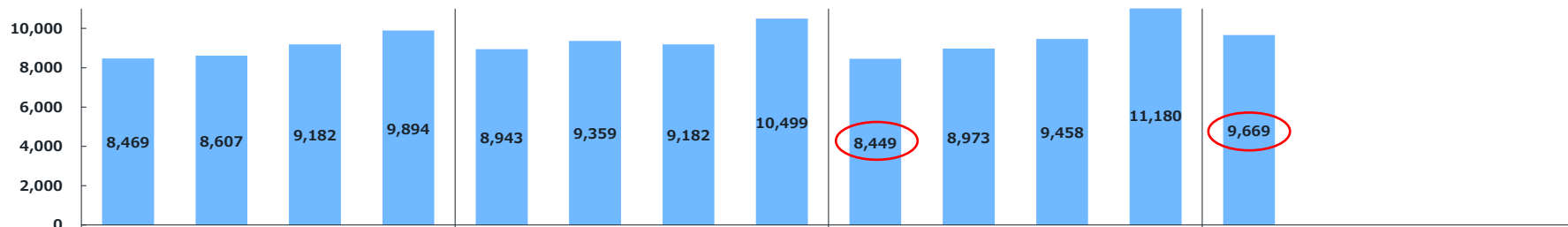
	23/1Q	23/2Q	23/3Q	23/4Q	24/1Q	24/2Q	24/3Q	24/4Q	25/1Q	25/2Q	25/3Q	25/4Q	26/1Q	26/2Q	26/3Q	26/4Q
¥/USD	136.4	144.2	149.7	146.9	155.5	152.4	148.8	154.7	145.5	147.3	152.8	156.4	158.5			
¥/EUR	147.7	157.3	159.9	159.3	167.5	165.6	161.4	159.4	162.5	171.3	177.5	184.2	184.6			
¥/AUD	89.9	95.4	96.7	97.0	101.9	101.5	99.0	95.7	92.6	96.0	100.2	108.0	112.6			



【参考資料】＜建設機械・車両＞ 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

売上高

(億円)

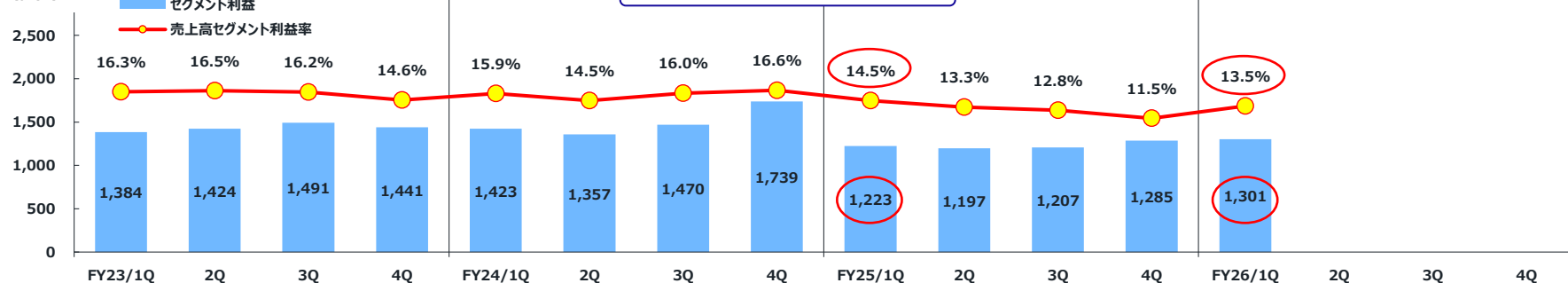


(為替
レート)

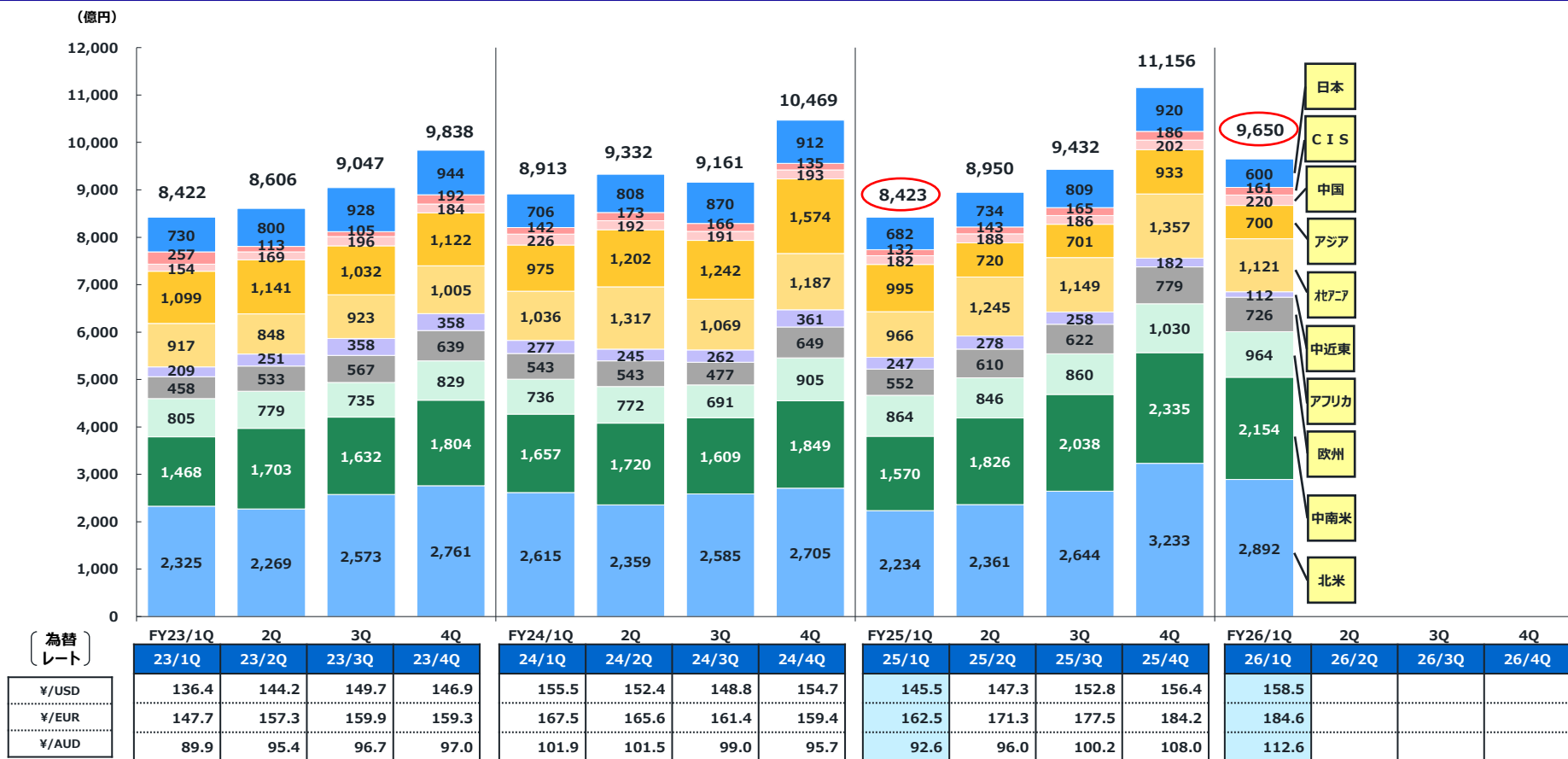
	FY23/1Q	2Q	3Q	4Q	FY24/1Q	2Q	3Q	4Q	FY25/1Q	2Q	3Q	4Q	FY26/1Q	2Q	3Q	4Q
	23/1Q	23/2Q	23/3Q	23/4Q	24/1Q	24/2Q	24/3Q	24/4Q	25/1Q	25/2Q	25/3Q	25/4Q	26/1Q	26/2Q	26/3Q	26/4Q
¥/USD	136.4	144.2	149.7	146.9	155.5	152.4	148.8	154.7	145.5	147.3	152.8	156.4	158.5			
¥/EUR	147.7	157.3	159.9	159.3	167.5	165.6	161.4	159.4	162.5	171.3	177.5	184.2	184.6			
¥/AUD	89.9	95.4	96.7	97.0	101.9	101.5	99.0	95.7	92.6	96.0	100.2	108.0	112.6			

セグメント利益

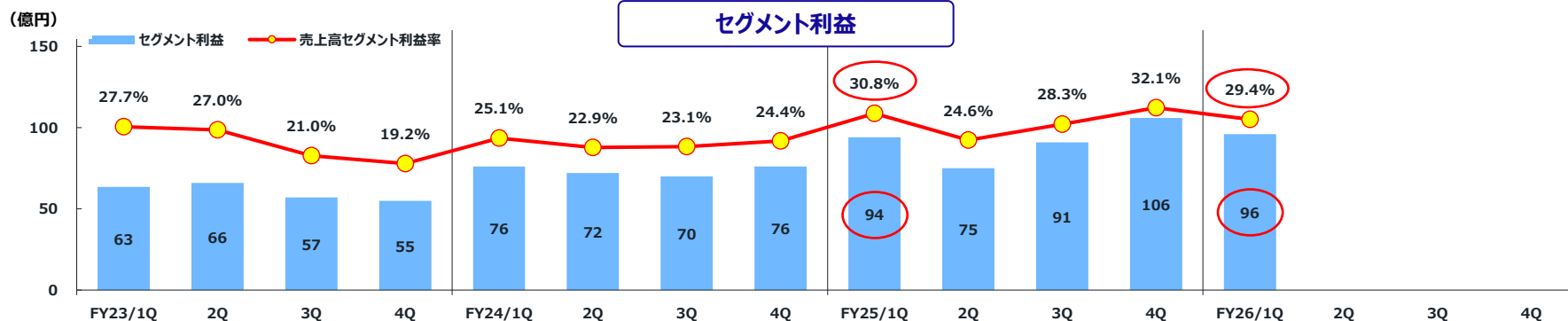
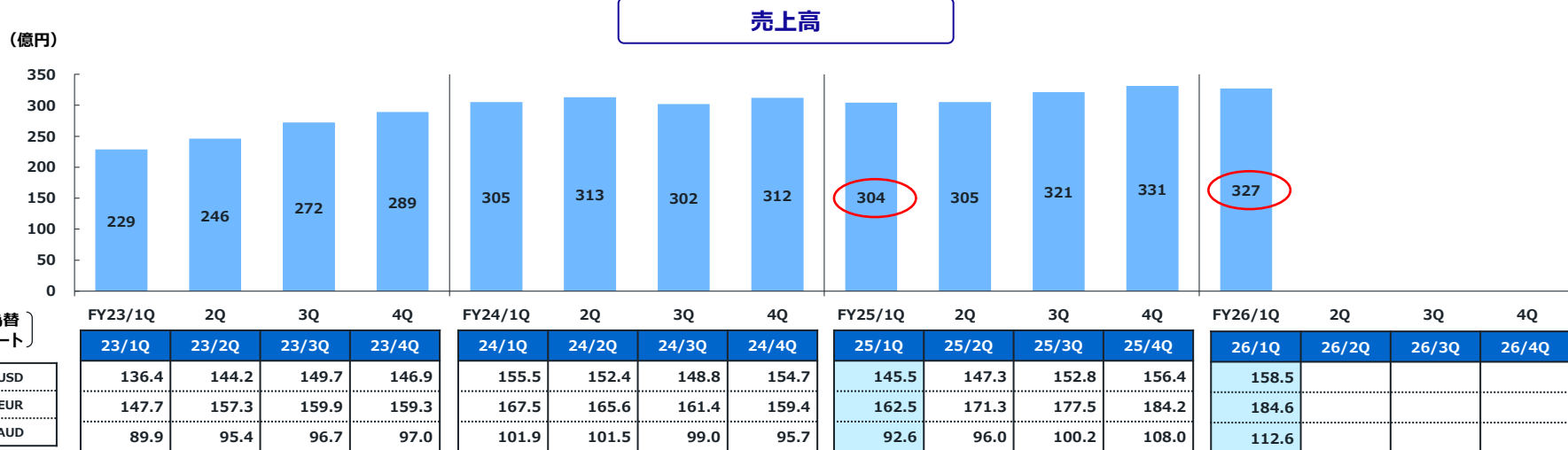
(億円)



【参考資料】＜建設機械・車両＞ 四半期毎の地域別売上高（外部顧客向け）



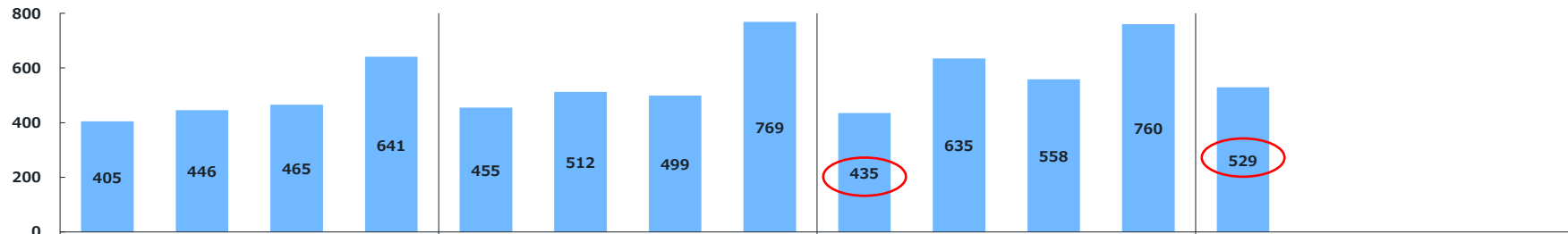
【参考資料】＜リテールファイナンス＞ 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移



【参考資料】＜産業機械他＞ 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

売上高

(億円)



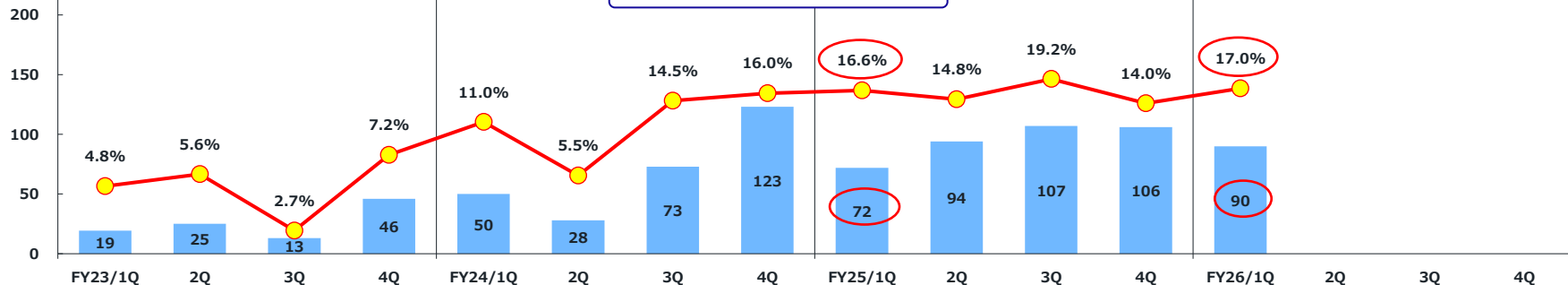
(為替
レート)

¥/USD	136.4	144.2	149.7	146.9	155.5	152.4	148.8	154.7	145.5	147.3	152.8	156.4	158.5			
¥/EUR	147.7	157.3	159.9	159.3	167.5	165.6	161.4	159.4	162.5	171.3	177.5	184.2	184.6			
¥/AUD	89.9	95.4	96.7	97.0	101.9	101.5	99.0	95.7	92.6	96.0	100.2	108.0	112.6			

セグメント利益

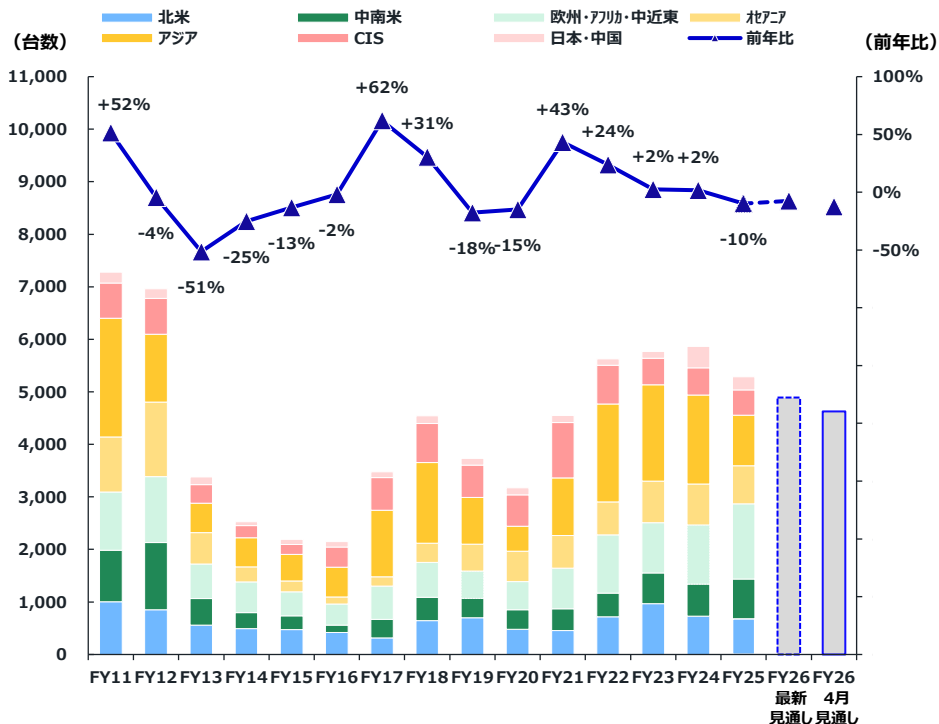
(億円)

■ セグメント利益 ● 売上高セグメント利益率

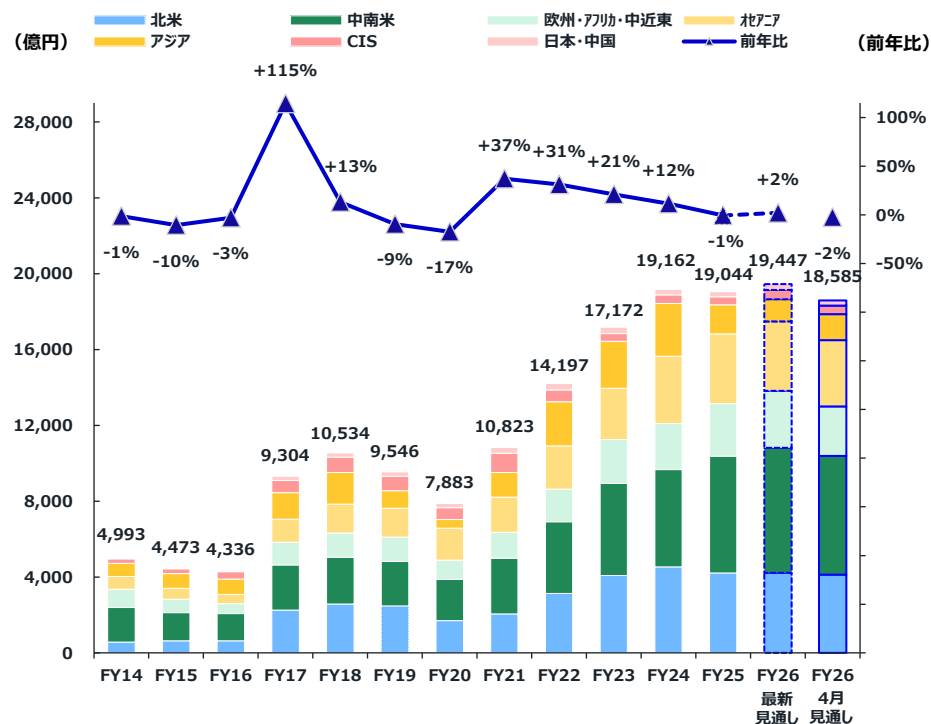


【参考資料】＜建設機械・車両＞ 鉱山機械の需要・売上高の推移と見通し

鉱山機械 年度別需要推移



鉱山機械 年度別売上高 (部品・サービス等含む)



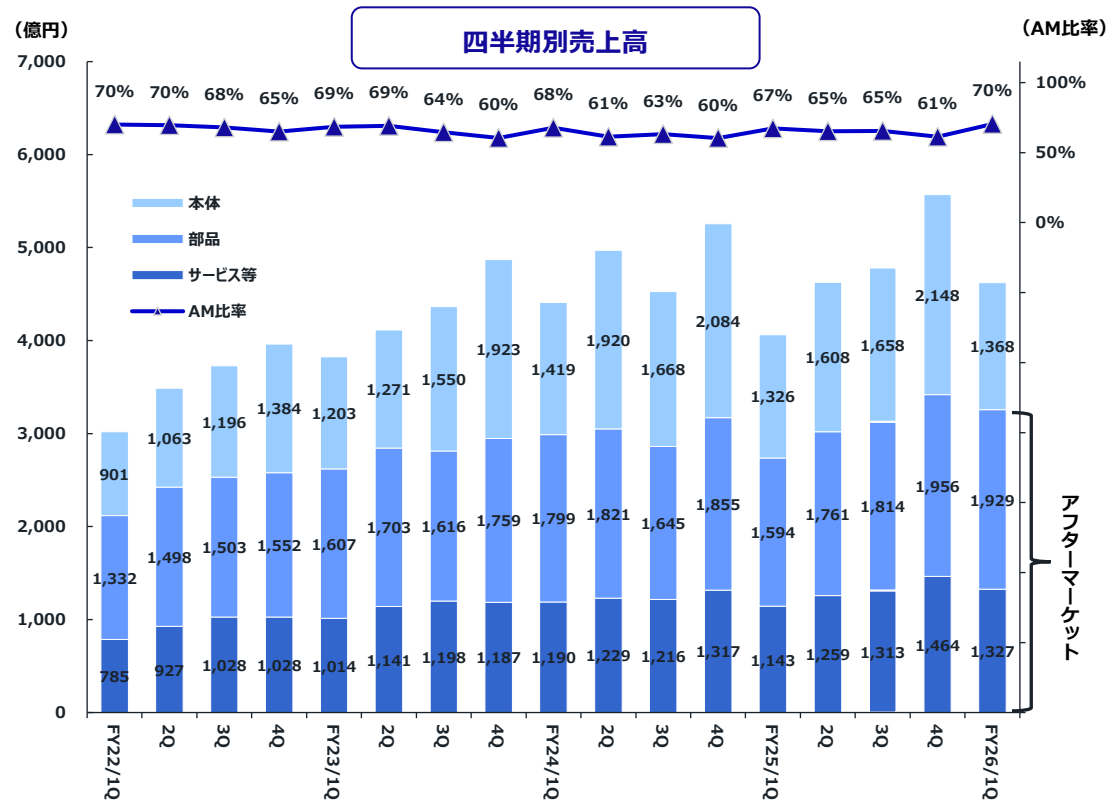
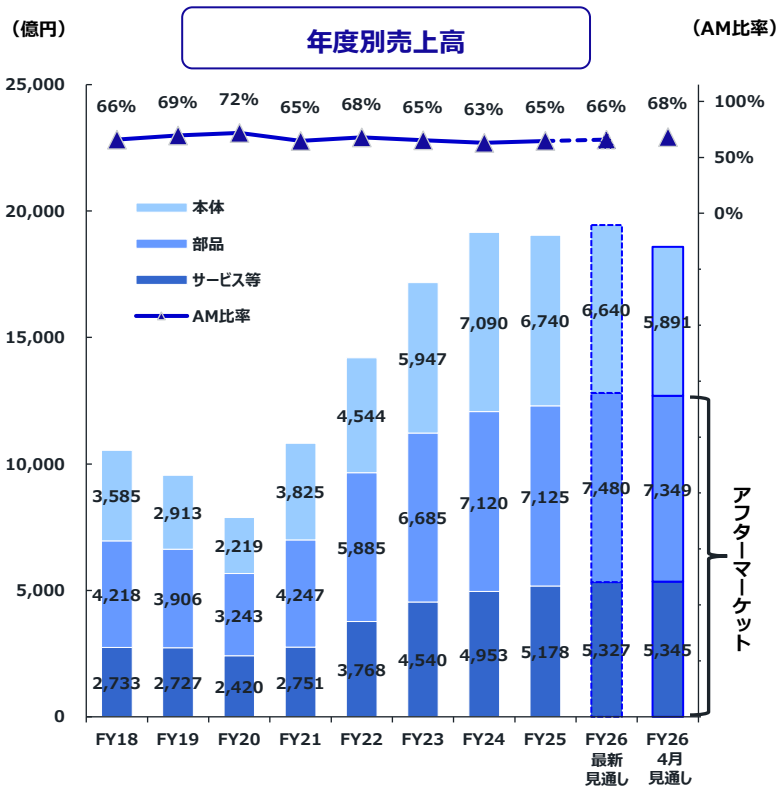
【出所】 コマツの推定

・タンクトラック：75 t (HD785) 以上
・エクスカベーター：200 t (PC2000) 以上
・モーターレーダー：280HP (GD825) 以上

・フルパワー：525HP (D375) 以上
・ホイールローダー：810HP (WA800) 以上

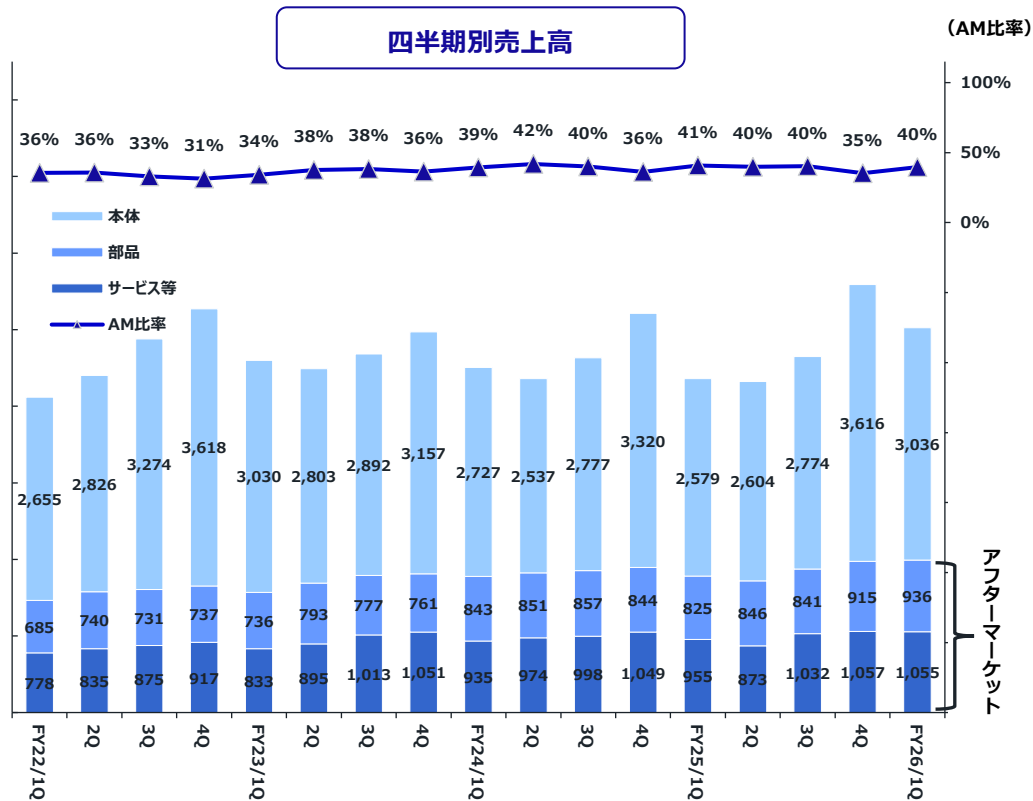
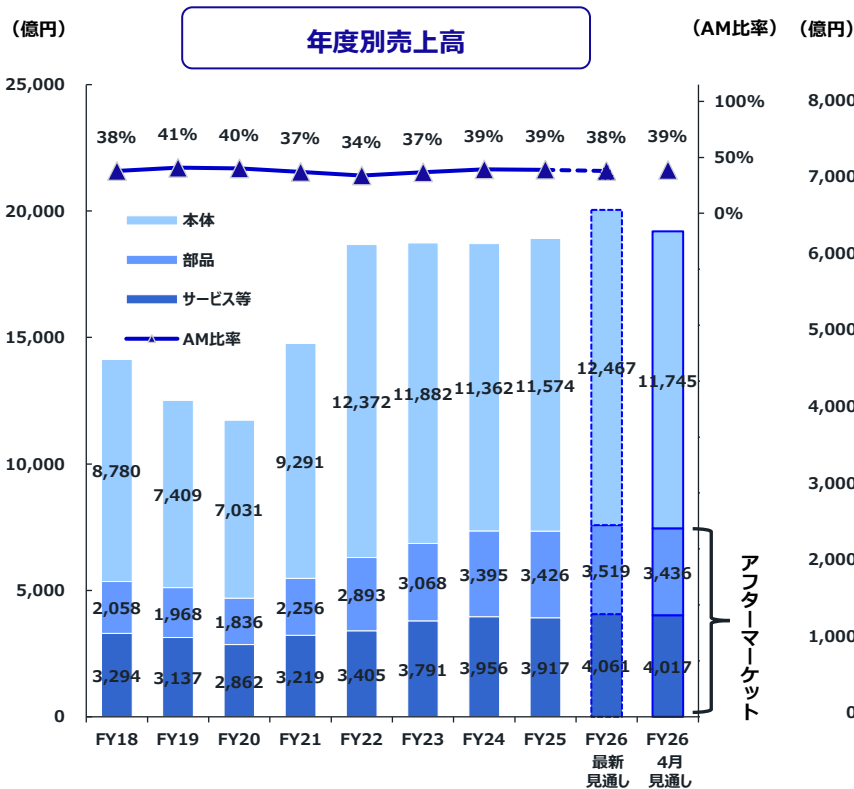
【参考資料】＜鉦山機械＞ 本体・部品・サービス等の売上高（外部顧客向け）

※アフターマーケット（AM）：部品＋サービス等



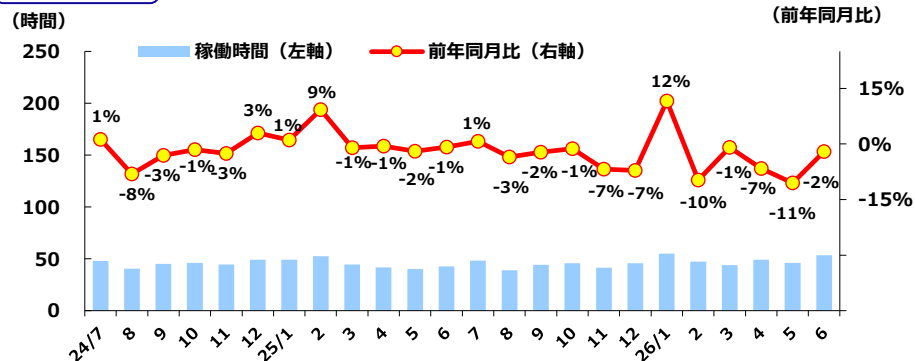
【参考資料】＜一般建機＞本体・部品・サービス等の売上高（外部顧客向け）

※アフターマーケット（AM）：部品+サービス等

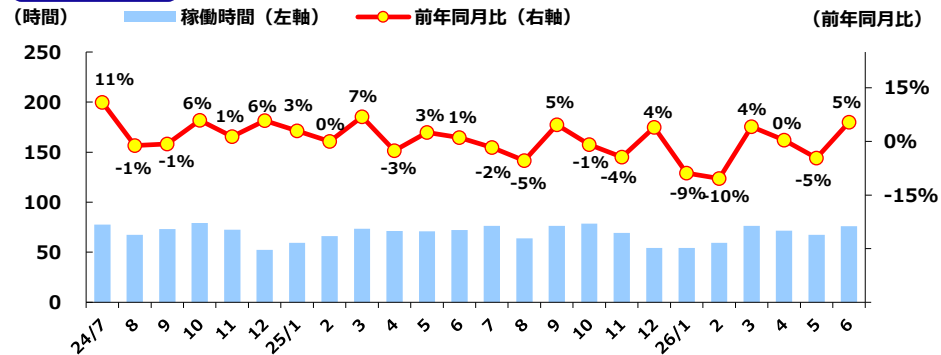


【参考資料】Komtrax 月平均稼働時間推移

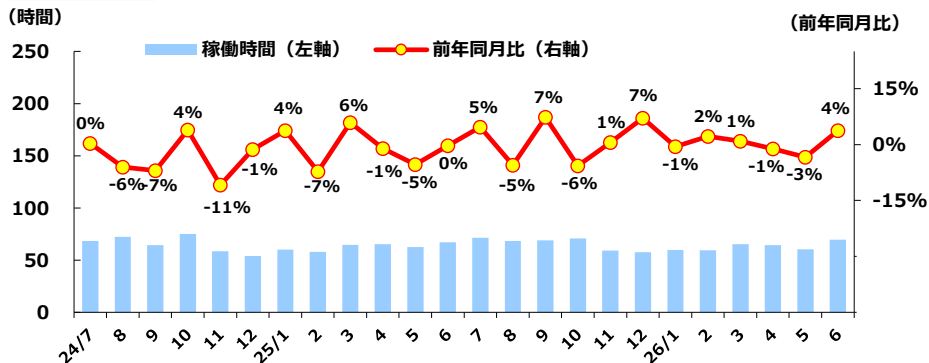
日本



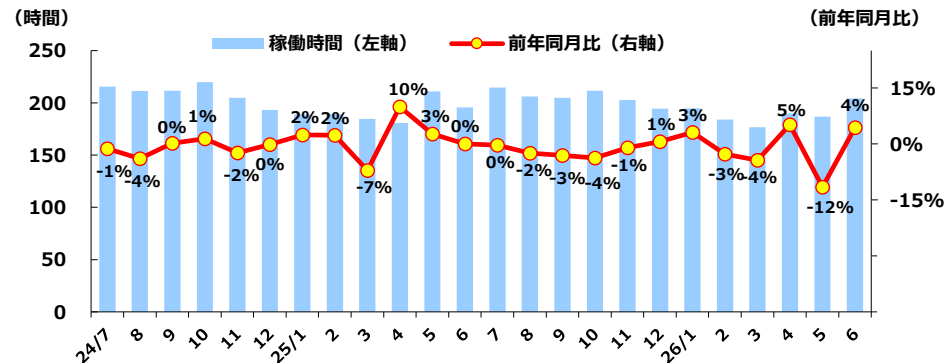
欧州



北米



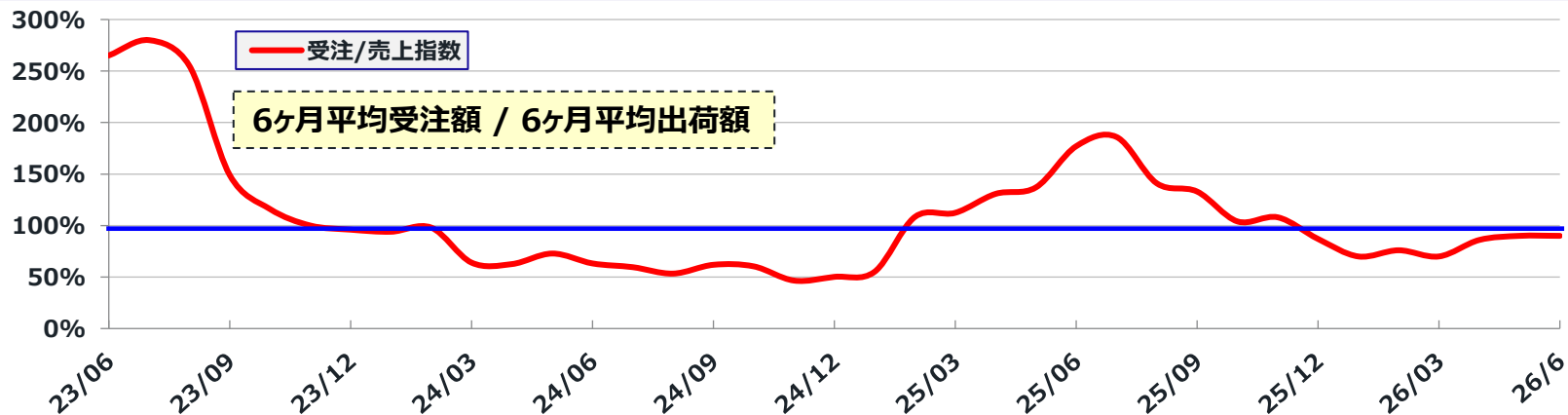
インドネシア



【参考資料】BBレシオ〔受注／売上指数（6ヶ月）〕 鉱山機械（本体）

コマツアメリカ （マイニング）

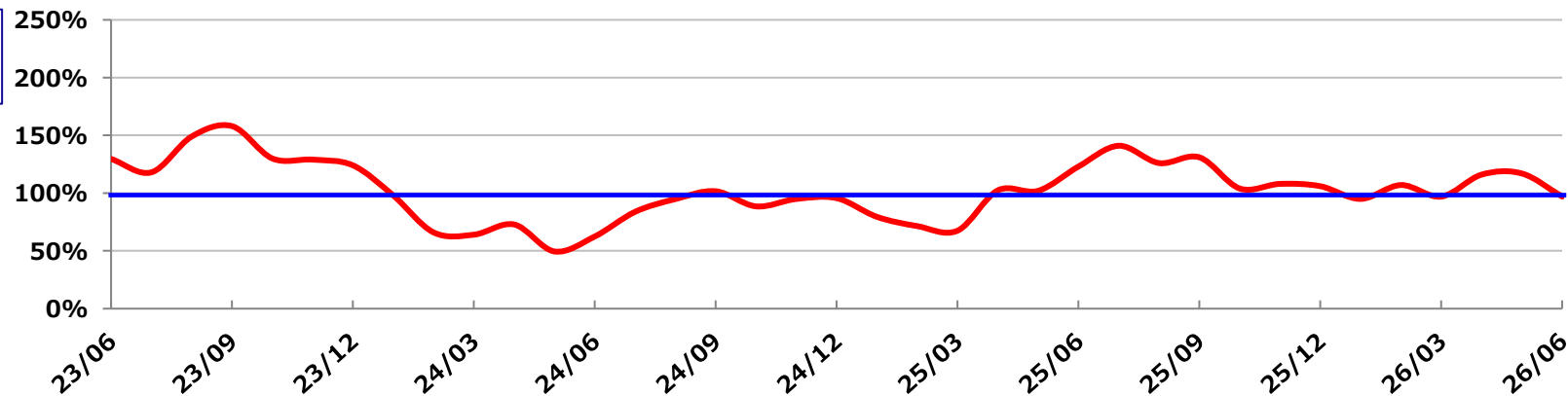
730E, 830E 860E
930E, 960E
980E



KMC （マイニング）

<露天掘り>
ロープショベル
ブラストホールドリル
ドラグライン他

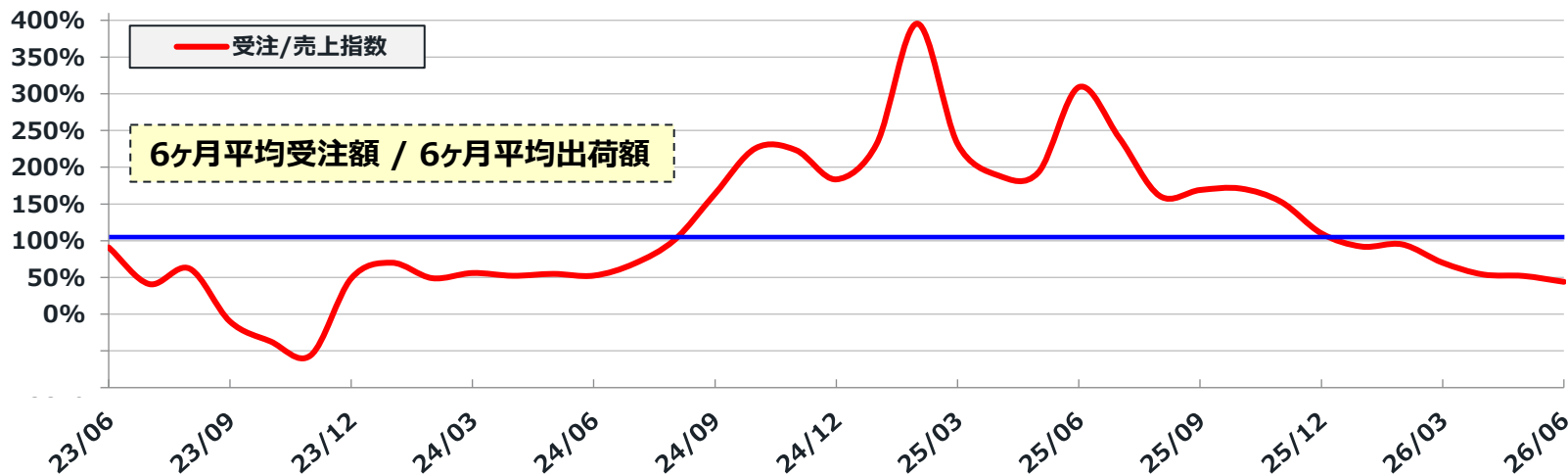
<坑内掘り>
コンティニューアスマイナ
シアラー
ロードホールダンブ
ジャンボドリル他



【参考資料】BBレシオ〔受注／売上指数（6ヶ月）〕 鉱山機械（本体）

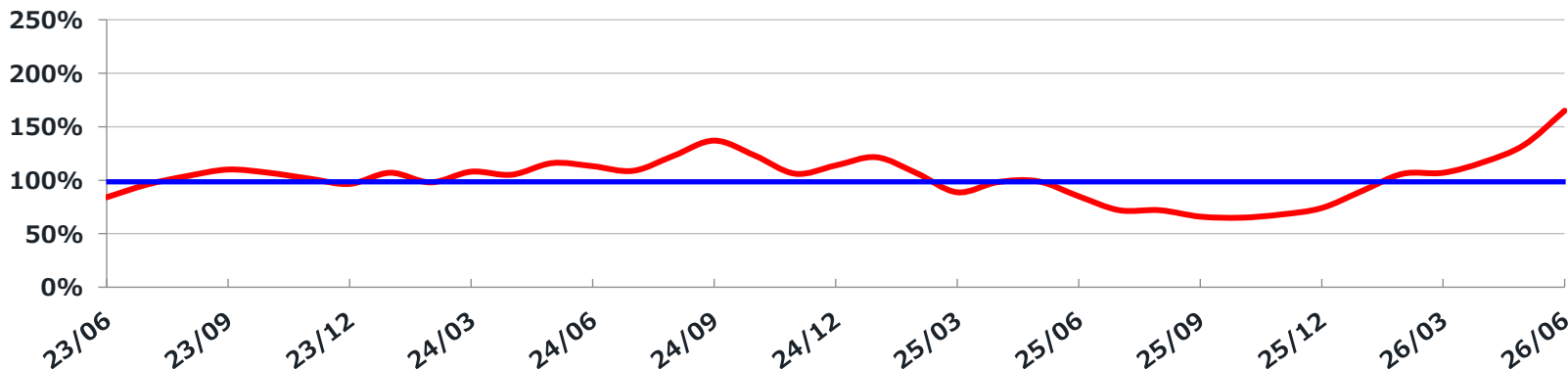
コマツドイツ (マイニング)

PC3000, PC4000
PC5500, PC7000
PC8000, PC9000



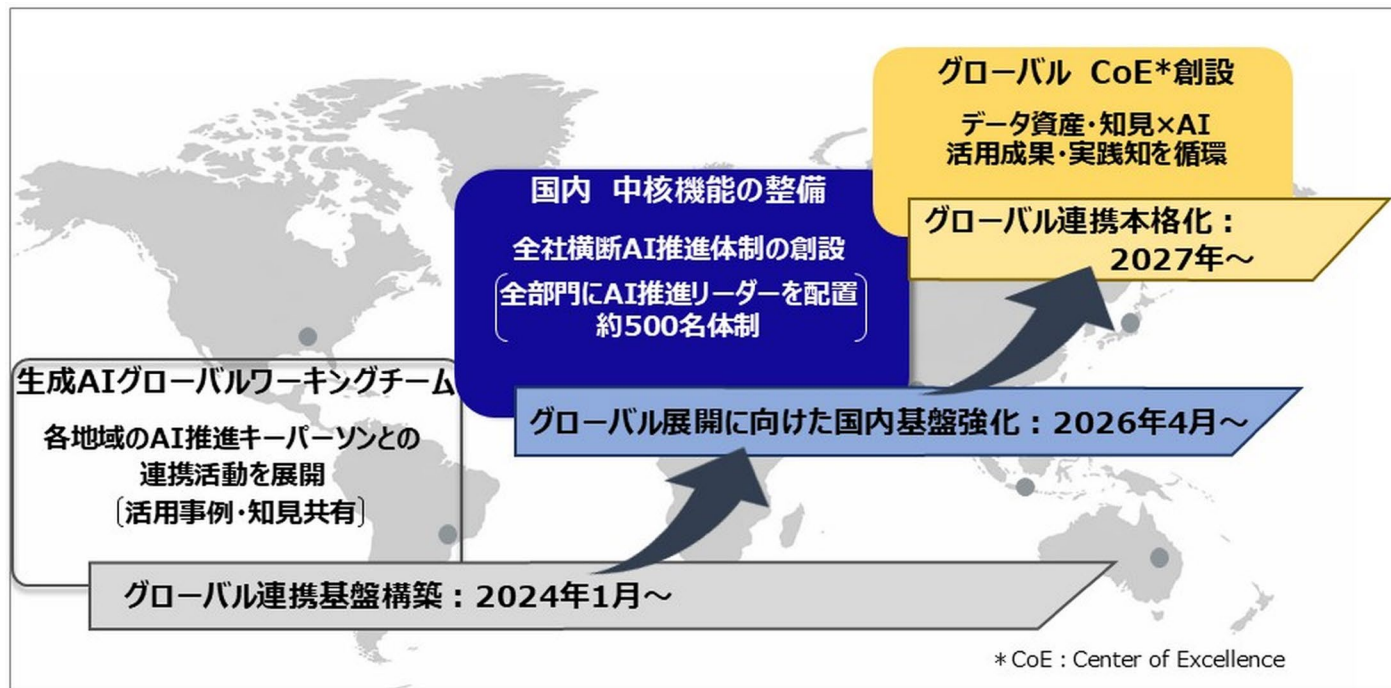
コマツ単独 (マイニング)

HD785, HD1500
PC2000, PC3400
WA800 up
D375A up
GD825A up



グローバルAI体制を強化し、バリューチェーン全体でのAI活用を強化

コマツは、これまで段階的に進めてきたAI活用をグローバルで加速するための推進体制を強化し、開発・生産・販売・サービスにわたるバリューチェーン全体での本格展開を開始しました。



- チャンギ空港 ターミナル5工事に採用、建設現場のデジタル化を加速 - シンガポールで「スマートコンストラクション®」を本格導入

コマツは、シンガポールにおける国家的大規模インフラ整備である、チャンギ空港ターミナル5建設プロジェクトにおいて、当社の施工管理デジタルソリューション「スマートコンストラクション®」の導入を開始しました。



学生フォーミュラとの連携で「コマツ・ウィリアムズエンジニアリングアカデミー」を強化

コマツと、アトラシアン・ウィリアムズF1チームは次世代のエンジニアの育成を目指し「コマツ・ウィリアムズエンジニアリングアカデミー」を2024年より開始しています。このたび第3期を開始し大学生向けエンジニアリング競技の代表格である学生フォーミュラとの連携を強化します。



- 持続可能な社会の実現に向けた環境課題への対応を加速 - グリーンボンド発行について

コマツは、国内市場において公募形式によるグリーンボンド（無担保普通社債）を発行しました。本発行により調達した資金は、現在建て替えを進めているコマツ新本社ビルに関連する支出への充当を予定しています。

【新本社イメージ図】



【グリーンボンドの概要】

発行体	コマツ（株式会社小松製作所）
発行年限	3年
発行額	200億円
利率	年1.782%
条件決定日	2026年7月3日
払込日	2026年7月9日
資金使途	本社ビルの建て替えに係る設備資金（付随する土地・設備・改修費用を含む） なお、当該物件は2026年4月にZEB Ready(*1)認証を取得
社債格付	AA（R&I）
グリーンボンド 適合性評価	DNVビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社から「グリーンボンド原則2025」、「グリーンボンドガイドライン2024年版」、「グリーンローン原則2025」および「グリーンローンガイドライン2024年版」の適合性に関するセカンドパーティオピニオンを取得
主幹事証券会社	野村證券株式会社
ストラクチャリング・ エージェント（*2）	野村證券株式会社

*1 Net Zero Energy Buildingの実現を見据え、外皮の高断熱化および高効率な省エネルギー設備を備え、再生可能エネルギーを除き、基準一次エネルギー消費量から50%以上の削減に適合した建築物

*2 グリーンファイナンスのフレームワークの策定およびセカンドオピニオン取得の助言等を通じて、グリーンファイナンスの発行支援をおこなう者。

参考情報リンク先

株主・投資家情報

<https://www.komatsu.jp/ja/ir>

中期経営計画

https://www.komatsu.jp/ja/newsroom/2025/20250428_2

コマツレポート（統合報告書）

<https://www.komatsu.jp/ja/ir/library/annual>

IR-Day

<https://www.komatsu.jp/ja/ir/library/results/2025>

【業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項】

前述の将来に関する予想、計画、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は様々な要因の変化により、本資料の予想、計画、見通しとは大きく異なることがありうることをあらかじめご理解ください。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、および国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが考えられます。

コマツ 経営管理部

TEL: 03-6849-9725

FAX: 03-6849-9795

<https://www.komatsu.jp/ja>